

2023年度

愛知県

自主防災組織リーダー研修会

実施報告書



あいち防災キャラクター
防災ナマズン

一般財団法人日本防火・防災協会
愛知県

目 次

1	2023年度愛知県自主防災組織リーダー研修会実施要綱	… 1
2	日程表	… 4
3	参加者名簿	… 5
4	参加者アンケート	… 6
5	研修概要	…10
	(1) 【1日目】防災・減災カレッジ「防災基礎講座」受講	
	(2) 【2日目】愛知県防災教育センターにおける講習会受講	
6	研修資料	
	(1) 地域防災力の向上に向けた自主防災組織の役割	…15
	(2) 自分の身と地域を守るために	…35

2023年度愛知県自主防災組織リーダー研修会実施要綱

1 目的

災害発生時における被害の防止・軽減を図るためには、自主防災組織による平時からの防災活動が重要です。

自主防災組織の指導的立場にある者を対象に、その役割について理解を深め、地域における自主防災組織活性化のために活躍できる人材の育成と組織づくりを積極的に推進できる人材の養成を図り、本県の地域防災力の向上に資することを目的とします。

2 共催

愛知県、一般財団法人日本防火・防災協会

3 後援

総務省消防庁

4 日程及び会場

(1) 1日目 以下AもしくはBの日程を選択して受講

A：6月26日（月）9：00～16：35 名古屋大学豊田講堂ホール
もしくはオンライン

B：7月 1日（土）9：30～17：05 豊田市福祉センター
もしくはオンライン

※ あいち防災協働社会推進協議会及びあいち・なごや強靱化共創センターが主催する「防災・減災カレッジ」(<http://gensai.nagoya-u.ac.jp/kyoso/college.html>)の「防災基礎研修」を受講します。

(2) 2日目 全受講者以下日程・会場で受講

7月 8日（土）10：20～16：00 愛知県防災教育センター
(愛知県消防学校内)

5 参加対象者・人数

以下の(1)～(4)に全て該当する者の中から、各市町村から推薦された者1名(計54名)

なお、推薦を辞退する市町村があり、合計の参加人数が概ね50名に満たない場合は追加の受講者推薦を依頼する場合があります。

- (1) 現に自主防災組織の指導的立場にある者、若しくはその補佐的立場にある者、又は今後自主防災組織を結成しようとする団体の構成員であること。
- (2) 本研修への受講を希望し、二日間の日程すべてに参加できること。
- (3) 健康上特に問題がない者であること。
- (4) 「防災・減災カレッジ」の「防災基礎研修」を、今年度、個人で受講申し込みしていない（個人で受講申し込みする予定がない）こと。

6 研修内容

別添「2023年度愛知県自主防災組織リーダー研修会 日程表」のとおり

7 受講費用

無料（会場までの交通費及び昼食費、オンライン受講に係る通信料等は各自負担）

8 その他

- (1) 以下のいずれかに該当する場合は研修を中止します。
 - ア 県内の一部又は全域に大雨、洪水、暴風、高潮、波浪、大雪、暴風雪における警報又は大雨、暴風、高潮、波浪、大雪、暴風雪における特別警報、「伊勢・三河湾」又は「愛知県外海」における津波警報又は特別警報（大津波警報）のいずれかが発表され、かつ、県内の一部又は全域に相当規模の災害が発生した場合又は発生する恐れがある場合
 - イ 南海トラフ地震臨時情報が発表された場合
 - ウ 県内で震度5弱以上、又は名古屋市で震度4以上の地震が発生し、かつ、県内の一部又は全域に相当規模の災害が発生した場合又は発生する恐れがある場合
 - エ その他、主催者が中止とすることが適切と判断した場合
- (2) 昼食については、各自で用意してください。会場内で飲食する場合には、当日指定された場所でのみ飲食することとし、ゴミを持ち帰ってください。
※2日目会場の「愛知県防災教育センター」の周辺には、コンビニや飲食店はありませんので、ご注意ください。
- (3) 1日目の講義をオンラインで受講される場合は、受講方法等について、別途「防災・減災カレッジ」事務局より、Zoom ウェビナーの案内メールを送付します。

9 会場アクセス図等

(1) 1日目

A 名古屋大学豊田講堂ホール
(名古屋市千種区不老町1)



B 豊田市福祉センター
(豊田市錦町1丁目1-1)



(2) 2日目

愛知県防災教育センター (愛知県消防学校内、尾張旭市大字新居 5182 の 1393)



2023年度愛知県自主防災組織リーダー研修会 日程表

1日目（「防災・減災カレッジ」の「防災基礎研修」を受講）

A 6月26日（月）名古屋大学 豊田講堂ホール もしくは オンライン

B 7月 1日（土）豊田市福祉センター もしくは オンライン

日程		講義名		講師	
A 名古屋大学	B 豊田市福祉センター	A 名古屋大学	B 豊田市福祉センター	A 名古屋大学	B 豊田市福祉センター
8:30~9:00	9:00~9:30	会場受付			
9:00~9:10	9:30~9:40	開校式			
9:15~10:25	9:45~10:55	防災概論		名古屋大学名誉教授 福和 信夫	名古屋大学 減災連携研究センター 特任教授 武村 雅之
10:35~11:45	11:05~12:15	自然災害概論		名古屋大学大学院 環境学研究科 教授 山岡 耕春	名古屋大学 減災連携研究センター 副センター長・教授 鷺谷 威
11:45~12:45	12:15~13:15	休憩			
12:45~13:55	13:15~14:25	公助と自助・共助	防災ボランティア概論	愛知県 防災安全局防災危機管理課 職員	災害ボランティアコーディネーターなごや 代表 高崎 賢一
14:05~15:15	14:35~15:45	防災ボランティア概論	公助と自助・共助	認定特定非営利活動法人 レスキューストックヤード 代表理事 栗田 暢之	愛知県 防災安全局防災危機管理課 職員
15:25~16:35	15:55~17:05	企業防災概論		一般社団法人 日本損害保険協会中部支部 推薦 保険株式会社 職員	一般社団法人 日本損害保険協会中部支部 推薦 保険株式会社 職員

2日目 7月 8日（土）愛知県防災教育センター

日程	講義名	講師
10:00~10:20	会場受付	
10:20~10:30	挨拶	愛知県防災安全局防災部防災危機管理課 課長補佐 渡辺 修司
10:30~11:30	講演 「地域防災力の向上に向けた自主防災組織の役割」	認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード 代表理事 栗田 暢之
11:30~12:15	休憩	
12:15~13:00	講演 「自分の身と地域を守るために」	あいち防災リーダー会
13:00~15:50	ワークショップ 「避難所運営ゲーム」	
15:50~16:00	事務連絡	

アンケート回答結果（設問 1～7）

1. あなたの年齢を教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
10歳未満	0	0.0%
10代	0	0.0%
20代	0	0.0%
30代	2	7.1%
40代	8	28.6%
50代	3	10.7%
60代	9	32.1%
70代	5	17.9%
80歳以上	1	3.6%
計	28	100.0%

2. 本研修（愛知県自主防災組織リーダー研修会）全体について

選択肢	回答数	回答割合
大変役に立った	21	75.0%
やや役に立った	5	17.9%
ふつう	2	7.1%
あまり役にたたなかった	0	0.0%
計	28	100.0%

3. 1日目のカリキュラム（防災・減災カレッジ「防災基礎研修」）について

選択肢	回答数	回答割合
大変役に立った	21	75.0%
やや役に立った	4	14.3%
ふつう	3	10.7%
あまり役にたたなかった	0	0.0%
計	28	100.0%

4. 2日目のカリキュラム＜講演「地域防災力の向上に向けた自主防災組織の役割」＞について

選択肢	回答数	回答割合
大変役に立った	21	75.0%
やや役に立った	6	21.4%
ふつう	1	3.6%
あまり役にたたなかった	0	0.0%
計	28	100.0%

5. 2日目のカリキュラム＜講演「自分の身と地域を守るために」＞について

選択肢	回答数	回答割合
大変役に立った	18	64.3%
やや役に立った	7	25.0%
ふつう	2	7.1%
あまり役にたたなかった	1	3.6%
計	28	100.0%

6. 2日目のカリキュラム＜ワークショップ「避難所運営ゲーム」＞について

選択肢	回答数	回答割合
大変役に立った	19	67.9%
やや役に立った	7	25.0%
ふつう	1	3.6%
あまり役にたたなかった	1	3.6%
計	28	100.0%

7. 防災・減災について、所属する自主防災組織等において、今後、指導していきたい項目を教えてください（複数回答可）。

選択肢	回答数	回答割合
建物の耐震化	5	4.4%
家具・家電等の固定	19	16.7%
非常持出袋の準備	8	7.0%
避難場所の確認	13	11.4%
家族との連絡方法の確認	14	12.3%
ハザードマップの確認	11	9.6%
食料・飲料水の備蓄	11	9.6%
防災訓練の実施	17	14.9%
簡易トイレ・携帯トイレの備蓄	12	10.5%
その他	4	3.5%
計	114	100.0%

その他回答

- 発災時の身の守り方を重点的に
- 防災キャンプ
- 早期の避難
- 危機感・防災意識の向上と行動に移すこと

アンケート回答結果 8（全回答列挙）

8. 貴団体における自主防災組織運営上の課題がありましたら、ぜひ御記入ください。

- ・防災関係の行事に若い世代の参加が少ないこと
- ・組織の役員は1年任期、役員の防災意識が薄いと感じる。役員一人一人の防災意識の向上が重要な課題である
- ・町内会の加入率の減少、若年層の防災意識の低さ
- ・担い手がない
- ・防災機材の購入助成金を増やしてほしい
- ・防災訓練は定期的実施しているが、避難所運営も今後訓練の中で取り入れたいと思いました
- ・総代さんが兼務という形で行っているため、その年だけ過ぎればよいという形になっている。丘の上なので、災害が少なく、身が入っていない。
- ・マンションなので、近所付き合いがあまりなく、そもそも関心もない状態
- ・若い世代の参加
- ・コロナにおいてすべてのコミ活動がだめになりました。この先は難しい運営です。
- ・若手の参加
- ・町内会長等の役職者による防災訓練は行われているが、住民が多く参加しての防災訓練がなかなか行われていない。
- ・高齢者が多く備蓄品の準備が市がやってくれるという意識が低い。一番教育したい小中学生の学ぶ場所・機会がない。
- ・町内会に入っていない世帯をどのようにしたら自主防災会の訓練等に参加してもらえるか、課題です。
- ・停電時の避難について考えないといけないと思った。
- ・防災訓練は必要と皆思っているが、参加が各町内の役員のみで一般参加者が少ないので、どういう取り組みがあるか知りたい。
- ・高齢化。行う内容がマンネリ化している。何を行う（新しいこと）にもパワーがいる。協力者が少ない。
- ・組織の分散化（大きすぎ）
- ・高齢者が地域に多くなっている。協力者が少ない。
- ・多くの団体の共通の課題として、リーダーの任期が1年と短いこと。
- ・要援護者の個人計画が進んでいない。

アンケート回答結果 9（全回答列挙）

9. 本研修について印象に残ったカリキュラム、御意見、御感想などございましたら、ぜひ御記入ください。

- ・今回のHUGを校区防災訓練で実施していきたい。
- ・栗田さん、早川さん、どちらのお話も具体的な例が多くわかりやすかったです。
- ・HUGについて、ゲームを通じて、実災害にどうすれば良いかということを考えさせられるきっかけになりました。
- ・ワークショップ、様々な課題があることがわかりました。リーダーが必要であると感じました。
- ・避難所における避難者等の情報を、行政と連絡しあうのにパソコン等の使用により行うため、共通のソフトを作成してほしい。災害弱者の取り扱いも平常より確立する必要あり。
- ・ワークショップでの避難所運営の大変さが体験でき、とてもよかった。また課題も見つかり、参考になった。
- ・避難所に指定されている場所について、通常時にどのように運営するのかをある程度定めて置き、それを踏まえた訓練や勉強会を実施する必要があると感じました。
- ・HUGは始めてやったが、楽しかった。
- ・HUGを大人の防災に詳しい人がやると、いつもの中学生の意見とは違うものが見れてよかった。
- ・HUGでグループワークできてよかった。
- ・大変良かったです。レスキューストックヤード栗田氏のお話は毎回楽しみにしていました。
- ・気づきを得ることができました。ありがとうございました。
- ・栗田様の講演：貴重な体験に涙した。大事なことは活かすこと。自分の身は自分で守る。
- ・避難所運営ゲームにより、運営することの困難性が過大。マニュアルの重要性を強く感じ、印象に残った。
- ・どのカリキュラムも印象に残っています。地域に対して還元し、啓発に努めたいです。
- ・はじめてHUGを体験しました。大変勉強になりました。
- ・「自分の身と地域を守るために」が印象に残りました。
- ・想定外とせず、想定内と対応できるように、日々訓練を実施していきたいです。
- ・HUG訓練の難しさ。瞬時の判断が難しい。
- ・今後地域の防災活動に活かして参りたいと思います。ありがとうございました。
- ・HUGをゆっくり、もう一度体験したいです。今日はとても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・一部の例を除き、真に機能する自主防が存在するのか？自主防は任意団体であるが、組織である。リーダーの下、組織的な活動ができるのか？リーダー研修は難しい。リーダーに必要とされる知識、判断力、平時でいえば管理職としての能力が必要とされる。この研修会も、更に内容の構成を再検討すべきである。リーダーとは何か？何が求められているのか？

【2日目】愛知県防災教育センターにおける講習会受講

愛知県では、南海トラフ地震等の大規模地震に備え、地域における家具固定の取組や自主防災活動を促進するため、愛知県防災教育センター（県消防学校内）において、県民の皆様からの申請に基づき「自助」、「共助」の取組を推進する防災人材を育成するための研修である体験講習会を開催しています。

今回の研修では、その体験講習会をベースとしながら、自主防災組織等のリーダーを対象としていることから、通常の体験講習会よりもハイレベルな内容とした専用のカリキュラムで実施をしました。

最初に、認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード 栗田暢之代表理事による「地域防災力の向上に向けた自主防災組織の役割」についての講義を聴講し、自主防災組織による「共助」の重要性等について学びました。



午後からは、あいち防災リーダー会による「自分の身と地域を守るために」についての講義を聴講し、自主防災組織のリーダーとして活動した経験談も踏まえ、ご講義いただきました。



その後、引き続きあいち防災リーダー会が講師となり、ワークショップ「避難所運営ゲーム」を実施しました。ワークショップでは、受講者が各グループに分かれ、災害が発生した場合の避難所運営についてカードゲーム方式で実施しました。

○避難所運営ゲーム やり方説明



○3つのグループに分かれて避難所運営ゲーム実施



○感想の発表、意見交換



○記念品のお渡し



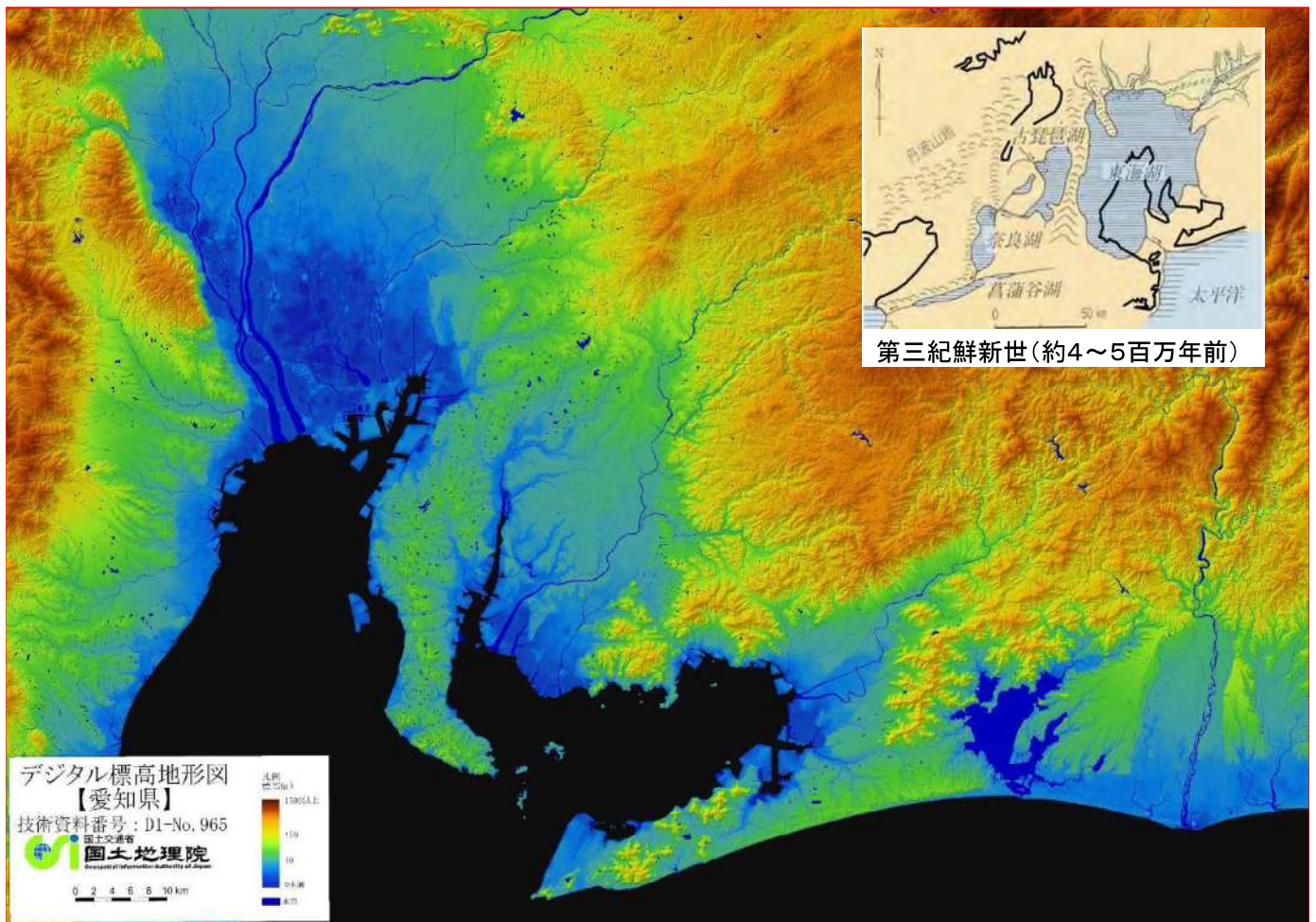


6月2日大雨による被災者宅の様子@豊橋市内

地域防災力の向上に向けた 自主防災組織の役割

震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな)代表
 東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)代表世話人
 災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援P)幹事
 愛知県被災者支援センター長
 東日本大震災被災者支援ボランティアセンターなごや運営委員
 認定NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)代表理事

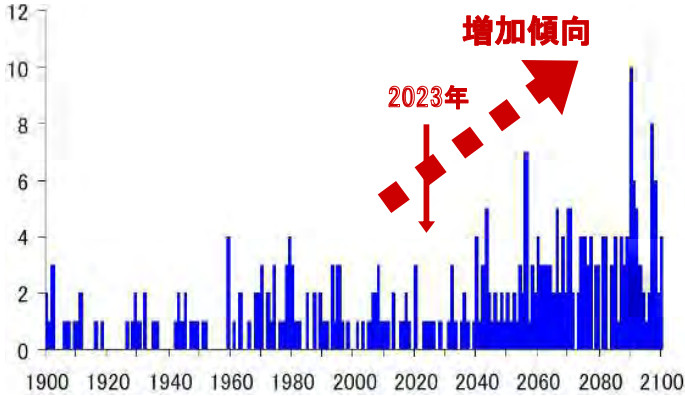
認定NPO法人レスキューストックヤード(RSY)代表理事
 栗田暢之



【21世紀は水害の世紀】

地球シミュレータによる1900年から2100年までの日本の夏季(6・7・8月)の豪雨日数の変化予測

(環境省<http://www.env.go.jp/earth/earthsimulator/05.pdf>)



2017年 九州北部豪雨
 2018年 西日本豪雨
 2019年 令和元年8月大雨・房総半島台風・東日本台風
 2020年 令和2年7月豪雨(以降、コロナ禍)
 2021年 令和3年7月大雨・8月大雨
 2022年 令和4年8月大雨・台風14号・15号
 2023年 令和5年梅雨前線豪雨等による災害・・・???

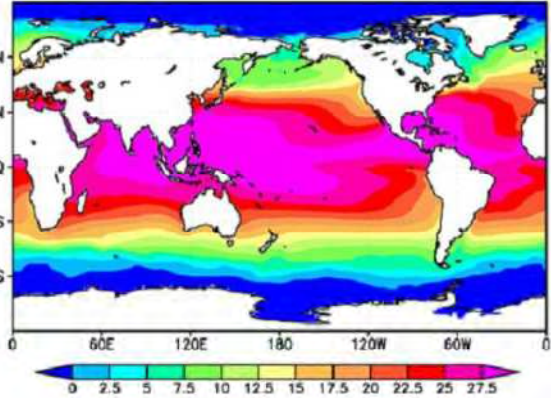
【台風は大型化の傾向】

最大風速54メートル超の最強クラスの台風が、今世紀末には10～20年に1回程度接近する可能性。地球温暖化の影響で中心気圧が850ヘクトパスカルを下回る史上最強の台風が発生する恐れも。

(気象庁気象研究所・海洋研究開発機構の共同研究チーム)

世界の海面水温 7月(平均)

(気象庁)



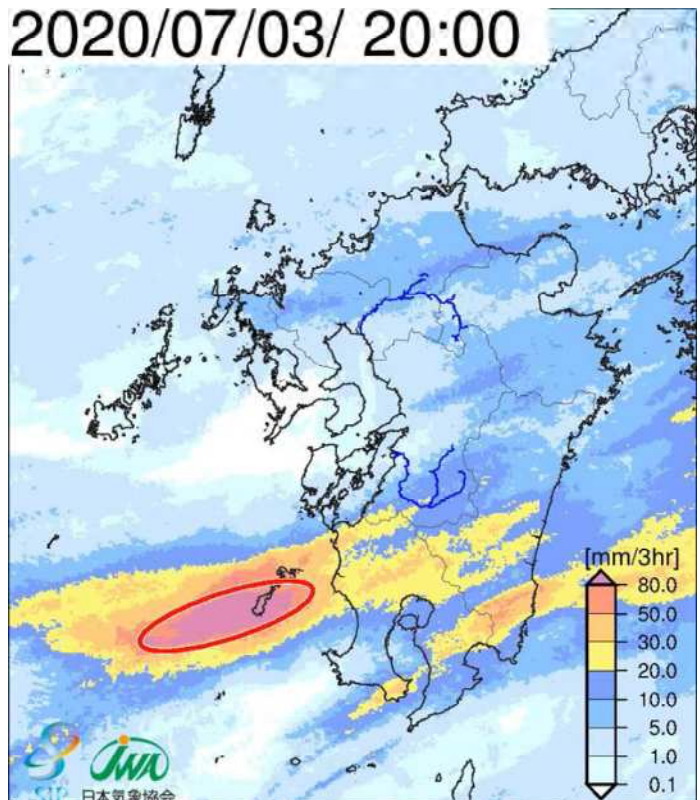
日テレ防災サイト

球磨川周辺の線状降水帯動画

日本気象協会(防災レポートVol.5)
 令和2年7月豪雨における降水量の特徴(速報) -線状降水帯、異例の11時間以上継続
 -News2020.07.17※2020.7.20 16:15訂正

ポイント

- 九州地方で13事例の線状降水帯が発生し、このうち球磨川氾濫事例では**11時間以上継続**した。
- 球磨川では計画降雨を超過、筑後川では計画降雨と同程度の雨量となった。
- 九州各地の被害発生箇所の多くで、各継続時間雨量または土壌雨量指数のいずれかで**既往最大値に匹敵**または**超過する雨量**となっていた。



<https://youtu.be/JKJyDsF1BWc>

令和3年5月20日から

警戒レベル 4 **避難指示で必ず避難**
避難勧告は廃止です

警戒レベル	新たな避難情報等	これまでの避難情報等
5	緊急安全確保※1	災害発生情報 (発生を確証したときに発令)
4	避難指示※2	・避難指示(緊急) ・避難勧告
3	高齢者等避難※3	避難準備・ 高齢者等避難開始
2	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	早期注意情報 (気象庁)	早期注意情報 (気象庁)

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではあり得ず。
 ※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることとなります。
 ※3 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じて避難の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたり自主的に避難するタイミングです。

警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。警戒レベル5緊急安全確保の発令を待ってはけません！	避難勧告は廃止されます。これからは、警戒レベル4避難指示で危険な場所から全員避難しましょう。	避難に時間のかかる高齢者や障害のある人は、警戒レベル3高齢者等避難で危険な場所から避難しましょう。
---	--	---

内閣府(防災担当)・消防庁

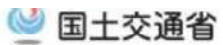
6月2日からの大雨について

以下の時系列で市内の一部地域に避難情報を発令しました。

- 13時30分 境川、逢妻川、猿渡川流域に避難情報を発令
- 「高齢者等避難」26,070世帯・59,033人
- 14時25分 境川流域の高齢者等避難を避難指示に引き上げ
- 「避難指示」7,224世帯・15,801人
- 実際の避難者数:(66世帯)130人

【愛知県内某市危機管理課より】

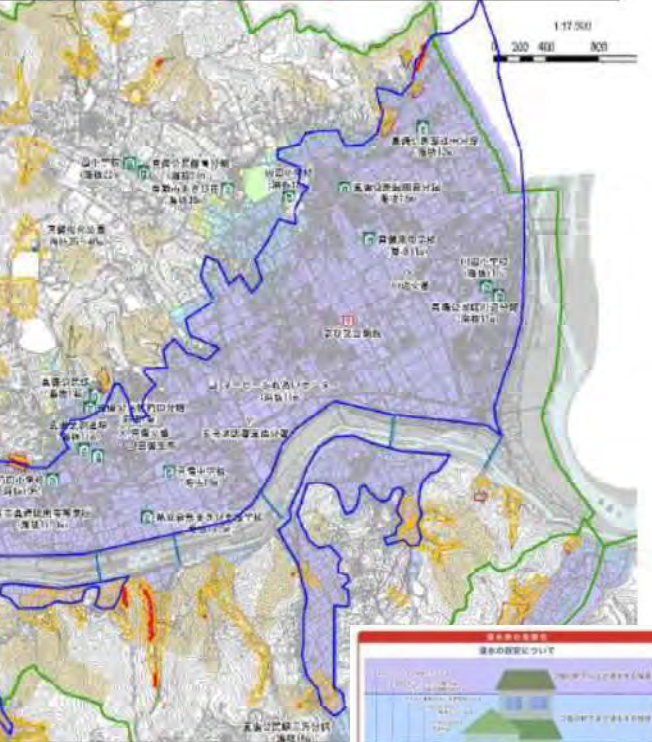
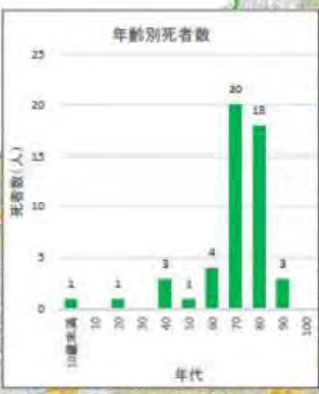
高梁川水系小田川における浸水・被害状況



小田川(倉敷市真備町)では、洪水浸水想定区域と実際の浸水範囲がほぼ一致にもかかわらず、51名が死亡。特に死者の約8割が70歳以上。

<凡例>

- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 急傾斜地崩壊危険箇所
- 土石流危険渓流(冠着想定範囲)
- 地すべり危険箇所
- 山地災害危険地区
- 洪水深5.0m以上の区域
- 洪水深2.0m以上5.0m未満の区域
- 洪水深1.0m以上2.0m未満の区域
- 洪水深0.5m以上1.0m未満の区域
- 洪水深0.5m未満の区域



<凡例>

- 浸水範囲(H30.7洪水)
- ※国土地理院作成の浸水想定図より複写

※倉敷市の洪水・土砂災害ハザードマップにH30年7月豪雨における実際の浸水範囲を加筆

● 8割以上が住宅1階部分で遺体となって発見



2018年西日本豪雨の実際の浸水状況



【岡山から伝えたい】真備住民の84%「水害に備えず」 第三者に「救助された」42%、地域防災力の低さ露呈 8/11(土) 14:02配信 山陽新聞デジタル

- 被災住民のうち42%が水害発生時に自ら避難したのではなく第三者に「救助された」。
- 救助された人に避難しなかった理由を三つまでの複数回答で尋ねると「これまで災害を経験したことはなかったから」(62%)「2階に逃げれば大丈夫だと思ったから」(50%)が目立った。「その他」(38%)の自由回答では「水位が急に上がって逃げられなかった」「水が来るとは思わなかった」「雨で避難を呼び掛ける屋外放送が聞こえなかった」との記述があった。
- 真備町地区を巡っては旧真備町の町史が、江戸期以降の水害の歴史を数多く記録している。これらの「知識」と、水害への「備え」を問うと「知っていたが備えていなかった」が68%と最も多かった。「知っておらず備えもしていなかった」(16%)と合わせると、8割強が水害を身近なものとして捉えられていなかったことがうかがえる。
- 倉敷市が大規模水害を想定して2016、17年に作成した「ハザードマップ」(危険予測地図)に関しては、75%が存在を知っていたにもかかわらず、内容を理解していた人は全体の24%だった。「知らなかった」と回答したのは25%。年代別でみると、30代以下では半数を超える人が知らなかった。ハザードマップは17年2月以降、真備町地区の全戸に配布。予測浸水域は西日本豪雨による実際の浸水域とほぼ重なっており、周知の在り方が問われそうだ。
- 水害時に行くべき避難所を知っているかを尋ねたところ、79%が「知っていた」と答えた。ただ、80代以上のおよそ4割が「知らない」とし、高齢者らにどう情報を伝えるか、大きな課題を残したと言える。

住民の避難行動に関する成功事例

<自助>

- 前兆現象(におい、床に水が流入)があり、2階に避難した。その後、消防署に通報し、職員に避難を促されて土砂流入前に近所のお宅に避難した。
- 避難したかったが、家が心配で山とは反対側の1階で就寝した。土砂崩れが発生したが、就寝場所までは土砂が到達せずに助かった。

<共助>

- 消防団員が、川が増水していることに気づき、避難勧告等の発令前であったが、避難が必要と判断し、集落を一軒一軒回って避難を呼びかけた。多くの住民はそれに応じて集落外にある町指定の避難場所に避難できた。一部の住民は、集落外への避難は間に合わなかったが、集落内の高台にあるお堂に避難して、一晩をやり過ごし、命を守ることができた。
- 7月豪雨で、自主防災組織・消防団による高齢者宅への避難の声掛けにより、避難誘導。その30分後に土砂災害が発生(全壊の被害)し、一命を取り留めた。
- 避難勧告の発令を受けて、自主防災組織の役員・消防団員が危険な地域を一軒一軒回って避難を呼びかけ、多くの住民が市指定の避難場所に避難した。
- 自主防災組織役員が高齢者宅を訪問し避難所開設情報を伝え、情報を聞いた住民が市指定の避難所へ避難した。
- 7月豪雨災害において、市内に土砂災害警戒情報、大雨特別警報(土砂災害)が発表される中で、事前に地域のハザードマップを確認していた消防団員が、高齢者を地域内の土砂災害警戒区域外のお宅に避難誘導し、安全を確保した。
- 避難情報の発令を受け、民生児童委員が高齢者等に一軒ずつ声掛けをした

<http://www.pref.kyoto.jp/kikikanri/documents/sannkou2.pdf>

- 超高齢化社会
- 地域コミュニティの希薄化
- 格差社会
(コロナで拡大・「家の様子がわからない」)

地域を知る地縁組織の役割は大きい
しかし、高齢化・形骸化などの課題もある
平常時から、地域の担い手の発掘・育成も

afterコロナにおける災害時の避難の注意点 「一人ひとり・平常時から」

【平常時】

- ① 各自治体のハザードマップで地域の被害予測を確認する。
- ② コロナ禍でも有効だった「複数の避難場所」を考えておく(分散避難)。
- ③ 非常持ち出し品には、引き続き、「マスク・消毒液・体温計・スリッパ・小袋(ゴミ袋)」などの感染症対策品を準備しておく。

【災害が迫ったら】

- ① 気象庁「**キキクル**」などで大雨や台風に関する気象情報・河川情報、避難に関する市からの情報を正しく理解する。
- ② 本当に危険が迫った時には、躊躇なく決断して避難行動をとる。
- ③ 隣近所で声を掛け合う。
- ④ 避難所では引き続き感染対策を徹底する。

「分散避難」を心がけて



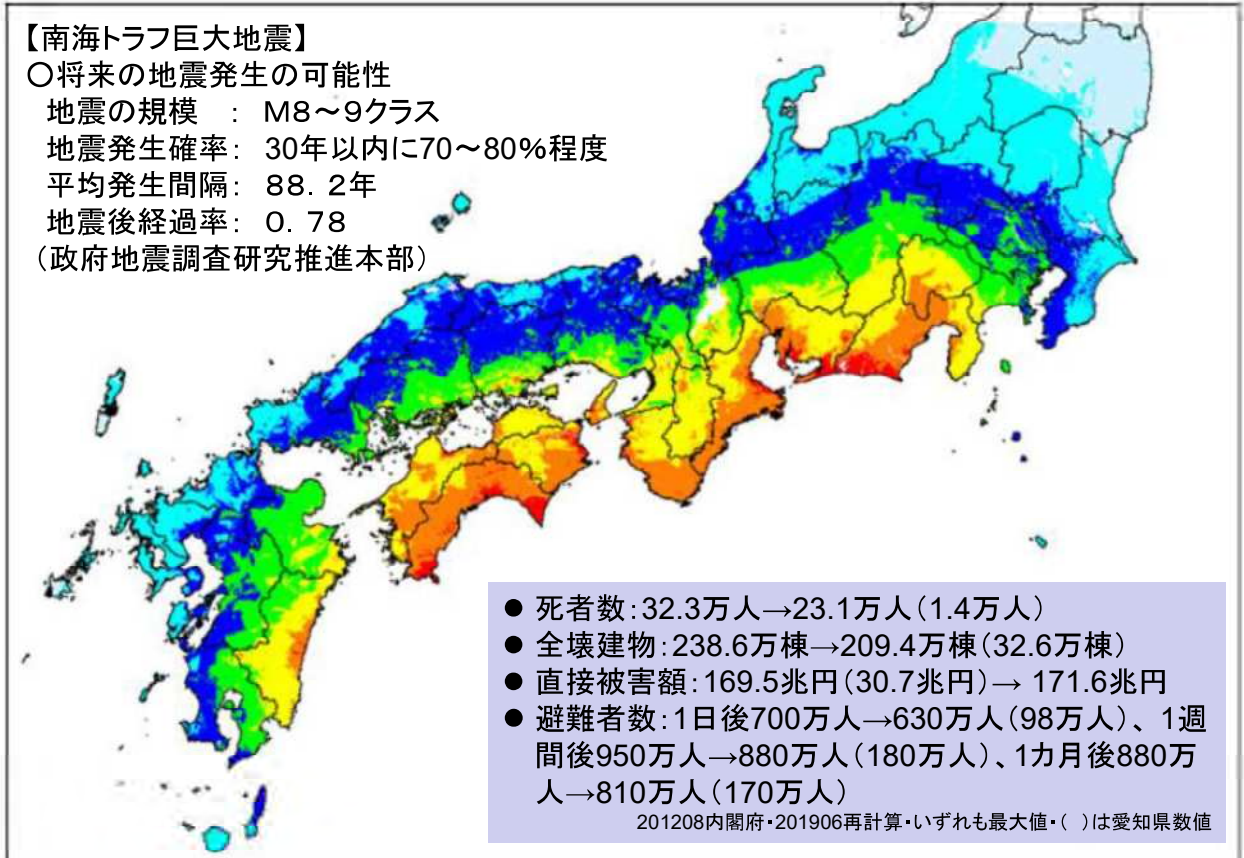
<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/disaster/>

※車中泊の留意点

エコノミークラス症候群の懸念とは常に隣り合わせで、過去には新潟県中越地震、記憶に新しい熊本地震でも、関連死との因果関係が指摘され、現に人が亡くなっている。決して、気軽にどうぞとは言えない。大型の車で、足を延ばして寝られる場合はまだいいが、軽乗用車に大人4人などはとても危険で、できるだけ最小限の泊数に留めた方がいい。

2020年8月25日／中日新聞「紙つぶて」より

図表 1-2-8 最大クラスの震度分布図

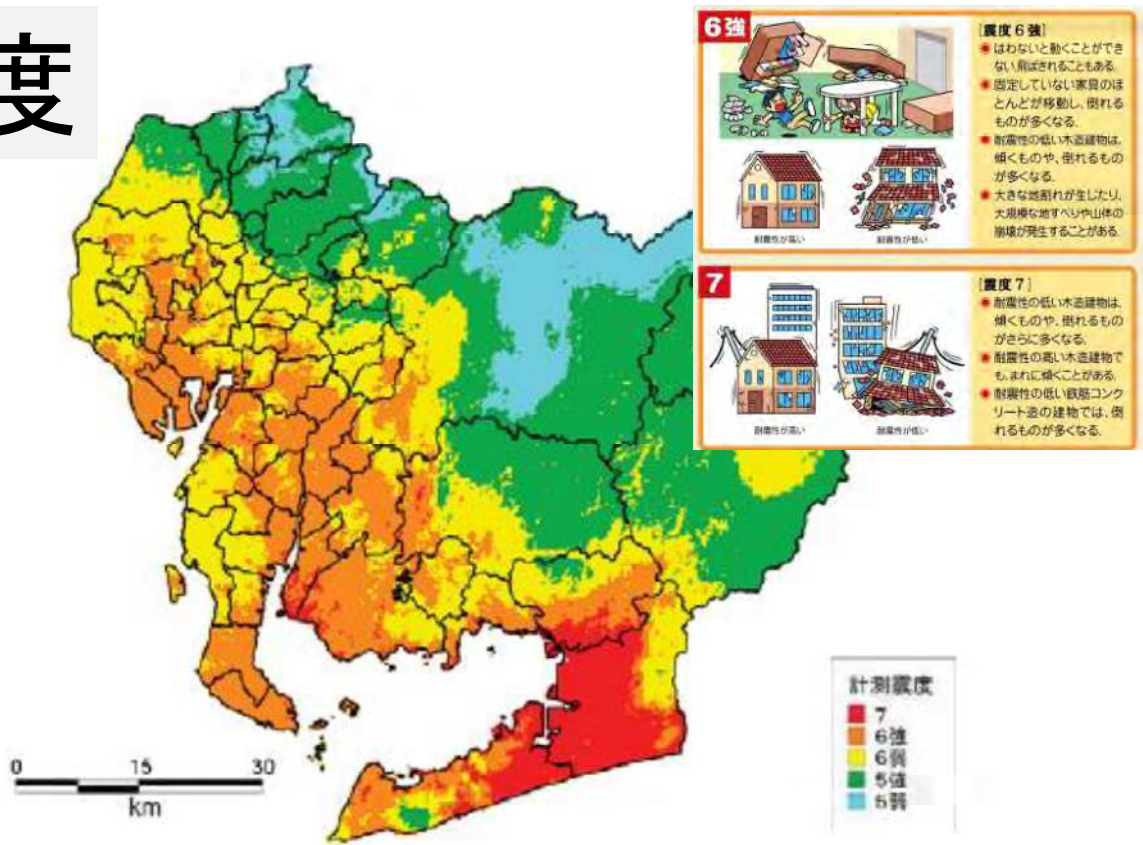


出典：「南海トラフの巨大地震モデル検討会」資料

13

平成24年「防災白書」

震度



震度分布 「理論上最大想定モデル」による想定（東側ケース）

南海トラフ地震・イメージCG

～NHK提供



15

阪神・淡路大震災・揺れの現実(神戸市)



16

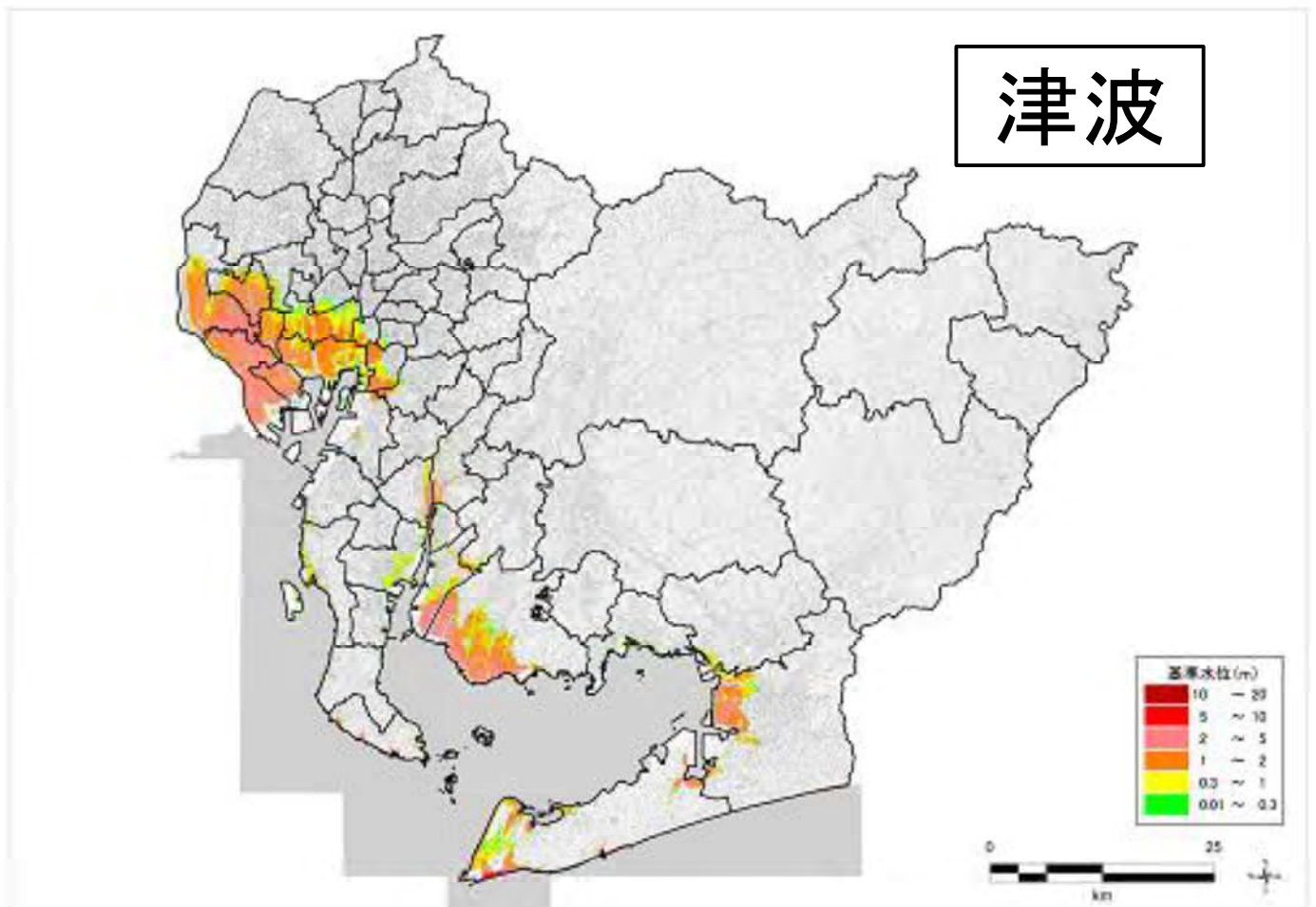
「お母さん、幼稚園でハートの凧を作ったの。明日凧上げするの、おやすみなさい」。五歳の娘、希はそういって床につきました。「ドン」という衝撃で目が覚めました。いつもつけて寝ている豆球が消え、真っ暗になりました。同時に体中が左右に激しく揺さぶられ、上から物が落ちてきました。とっさに同じ布団に寝ていた下の娘をかばうと、「ギャ」と希の声がしました。「希」「希」と呼びましたが返事がありません。「おとうさん、おとうさん、希が、希の上に何か落ちた」主人の上にも何か落ちてきたようで、立ち上がろうとすると、頭がつかえ、まっすぐ立っている状態ではなかったようです。「わからへん。何も見えへん。どこにいる」「私は大丈夫。理菜もここにいる。希をなんとかして」懐中電灯のあった柱は倒れ、玄関もつぶれていました。「助けを呼んでくるから待ってろ」。主人は、そう言ってゆがんだ勝手口を蹴破って外へ出て行きました。私は動けず、どうにか自由になる手を伸ばして希を探りました。そこに希の手がありました。「希」「希」と手を握りしめても反応がありません。左手の下の娘は動き出そうとします。今、私の腕の下から出ていったらどんな危険が待っているか、わかりません。「理菜もう少しねねしてようね」と言いました。体の上の物の重さが増してきます。主人が懐中電灯を借りて帰ってきて、助け出してもらいました。灯りに照らし出された部屋の中は、数時間前とは一変し、大きなピアノが斜めに倒れ、その角が希の頭の上にあります。二階のはりがピアノの上にあります。

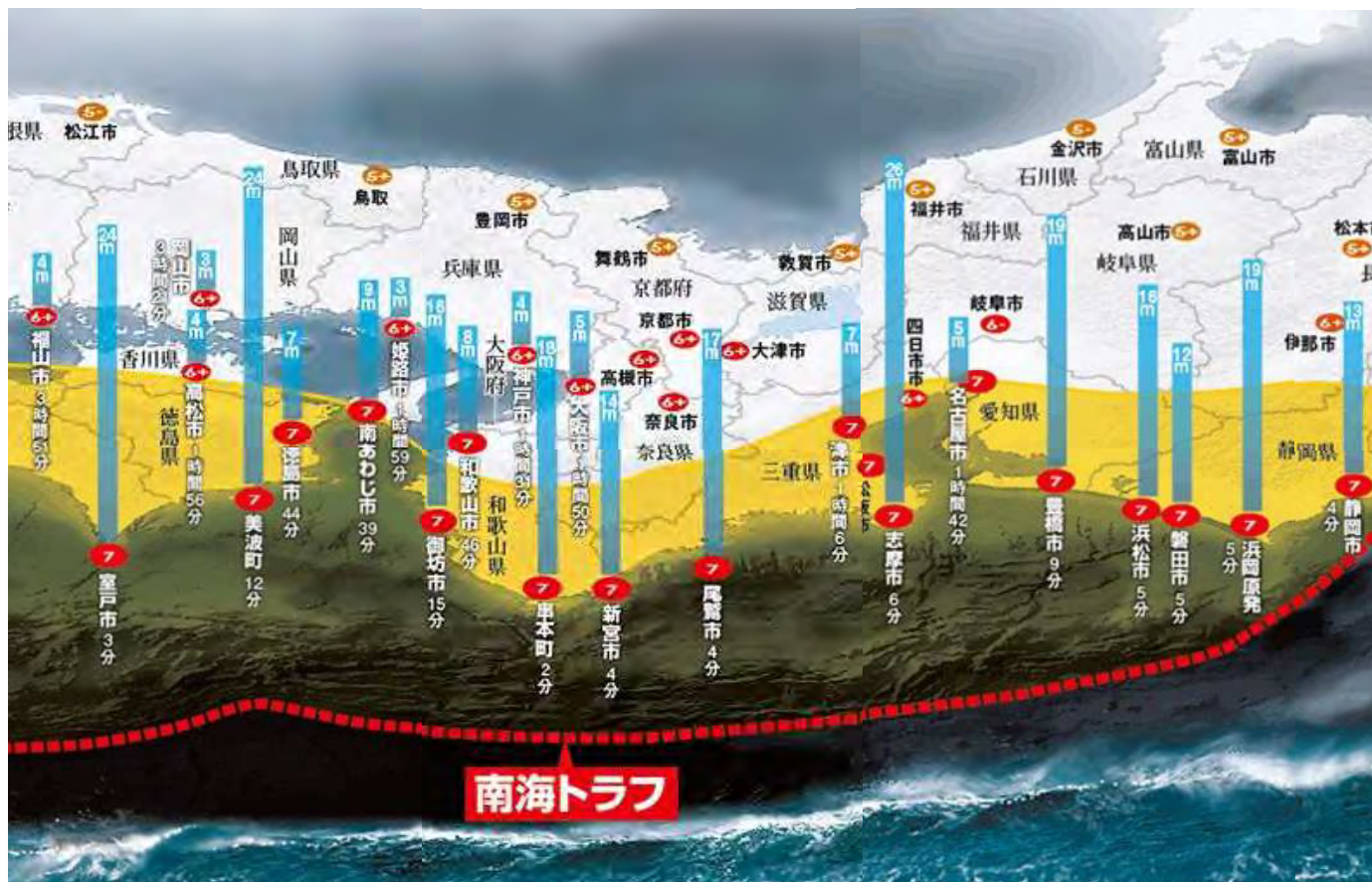
「誰か助けて」。外に向かって叫びました。希のお友達のお父さんが「大丈夫か」、と来て下さいましたが、大人二人ぐらいの力ではどうにもなりません。主人に「外に出ている」と言われ、下の子を毛布でくるみ外へ。外に出ると昨日まであったご近所の家はつぶれ、道をふさいでいます。「誰か助けてください。救急車に電話して下さい」。「行かれへん。電話も通じへん」。下の娘を抱いて裸足で立っていると若い男の子が靴を持ってきてくれ、大人一人がやっと通れるぐらいの穴から道路に出ました。やがて数人の人が車のジャッキ二台を使って希を助け出してくれました。その時娘には息がありませんでした。近所の病院から看護婦さんがとんできて下さり、家の車はキーがなくて使えないため、近所のご主人が病院へ運んで下さいました。病院への道も道路はゆがみ、がれきで寸断されています。はじめに運ばれた病院は、ライフラインを断たれ、すぐに修羅場と化してきました。点滴を受け、どうにか心臓は動き出したのですが、それ以上どうしていただく事も出来ませんでした。神戸大病院へやっと連絡がつき、搬送されました。集中治療室で先生から聞かされた言葉は、「手遅れです」ということでした。奇跡を祈り続けましたが、翌日午前10時、息を引き取りました。主人が倒れた家からどうにか取り出してきた、赤いトレーナーや大好きなセーラームーンの靴下を履かせ、病院を後にしました。

西宮の実家へ帰る途中、大好きだった幼稚園の前を通り、実家へ着いたのは夜の八時をまわっていました。一時間ぐらいで着くところを、九時間近くかかりました。とてもお月様がきれいいて、「のんちゃん お月様よ」と言うと、その顔はまるで笑っている様でした。十二月の音楽教室のクリスマス会で、目をつぶって手を握り、お母さんを当てるゲームで、あなたはすぐにお母さんを当ててくれました。「お母さんの手はいつもあたたかいもん」「お母さん疲れたら言ってね。いつでも肩たたいてあげる」。そう言って笑っていた希。幸せだったあの時はもう戻ってこないんですね。希はあの混乱の中、多くの人に助けて頂きました。電気が通じていないため、何時間も手で人工呼吸を続けて下さった看護婦さんが、「希ちゃん頑張りよ」と言って下さった言葉がどれほどうれしかったか、みなさん本当にありがとうございます。

あなたを奪った大震災がお母さんは本当に憎いです。今、お母さんもお父さんも死ぬことを怖くと思いません。天国にいるあなたに会えるまで頑張りますね。のんちゃん、見ていて下さいね。

震災体験手記集 第一巻「被災した私たちの記録」(阪神大震災を記録しつづける会)¹⁷

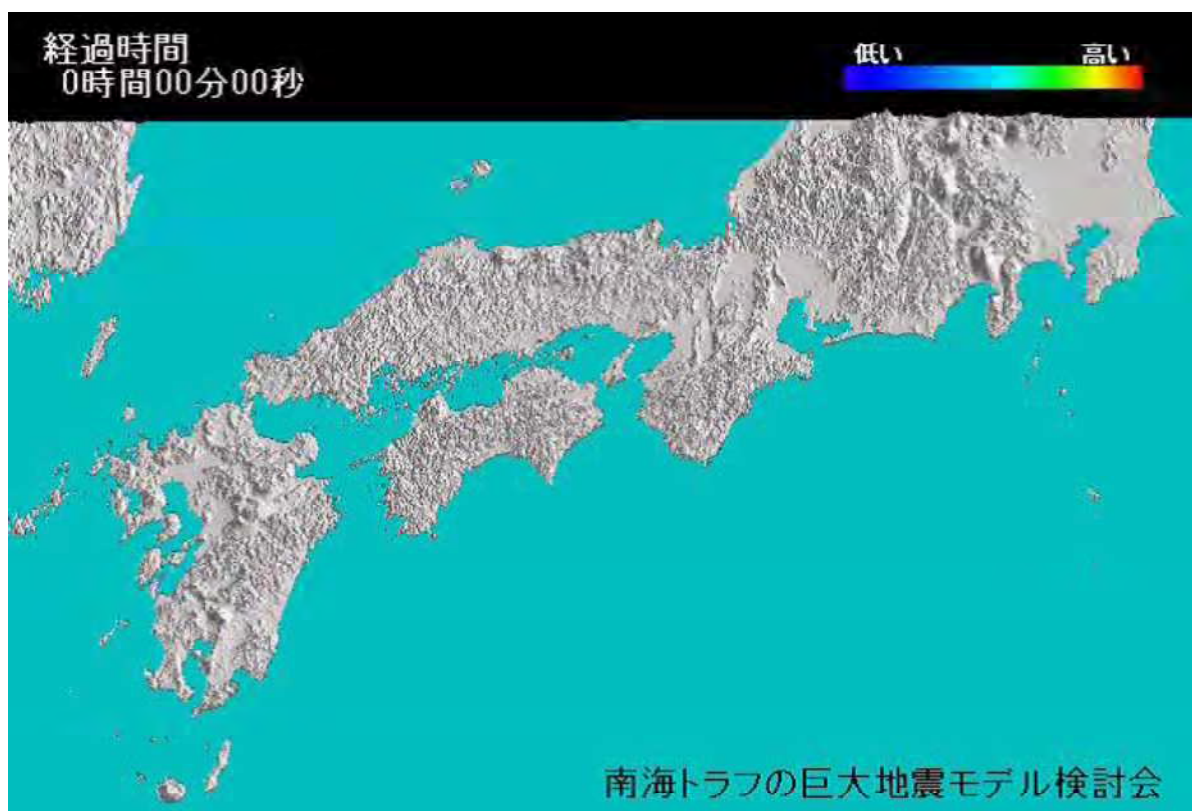




朝日新聞デジタル
http://www.asahi.com/special/nankai_trough/

津波シュミレーション

ケース①「駿河湾～紀伊半島沖」に「大すべり域＋超大すべり域」を設定
 堤防条件:津波が堤防等を越流すると破堤する)



東日本大震災・津波の現実(岩手県釜石市)



21

志野ほのかさん（東北福祉大4年・当時）

おじいさんはきっと逃げているだろうと思っていました。地震発生後、近所の人が確認しにいくと、地震の揺れで散乱したものの片付けをしていたようです。「そろそろ帰ってくるから」と私を待って、避難しなかったようです。

しびれを切らした近所の人が「先に避難しているからね」と声をかけた時には、長靴を履いて避難バッグを持って、私がいつも学校から帰ってくる方向を見ながら「帰ってきたらすぐに避難する」と言っていたそうです。それがおじいさんが確認された最後の姿でした。

両親が共働きだったため、日中はおじいさんと過ごすことが多く、近所の人から言われるほどのおじいさん子でした。頑固でたばこ好きだったおじいさんといろいろな話をしたり、帰ると必ず最初に「おかえり」の声が聞こえるのが当たり前でした。

おじいさんと会うことができたのは二週間後。遺体安置所で、ひつぎの中で苦しそうに口をあけて、何か言っているようでした。

なぜ私を待っていたのだろう。なんで逃げてくれなかったのだろう。たくさんの後悔が消えません。

皆さんに第一に伝えたいことは、自分の命は自分で守る、ということ。津波から命を守るためには遠く、高い所に一刻も早く逃げるしかありません。家で家族を待ったり、助けに家に戻ったりはしないで、信じて逃げる。家族で事前に話し合うことが大切だと思います。

しの・ほのか 22歳。震災時は宮城県東松島市野蒜小6年。
体育館避難後、階段を上って津波から助かったが自宅で祖父が亡くなった。
2015年に語り部活動を始めた。





地震からいのちを守る対策

家屋の耐震化

1981(昭和56)年5月以前に建てられた建物は倒壊の危険性が高い。
各市町村の「民間木造住宅耐震改修費等補助事業」等を活用。

室内の安全対策

大型家具などの転倒防止を。「せめて、寝床のそばに家具をおかない」対策を。

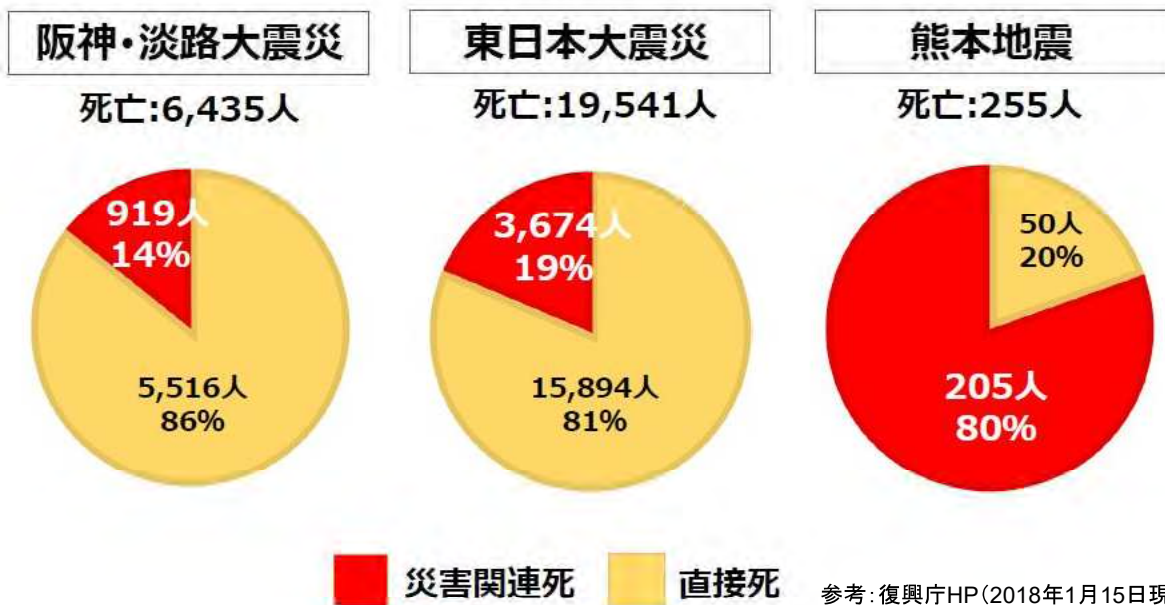
津波は「逃げるしかない」「少しでも高く・遠く」

太平洋側の外海は「ブルトナー型」、伊勢湾や三河湾の内海は「じわじわ型」。

災害関連死を防ぐ

「無理な避難生活を避ける」こと。特に、高齢者や持病をお持ちの方は要注意。負担の少ない避難生活のためには、まわりの方々の支援は不可欠です。

25



死因のほとんどは、家屋の倒壊や家具などの転倒による圧迫死。

死因のほとんどは、津波に巻き込まれたことによる溺死。

犠牲者のうち、80%以上が「災害関連死※」だった。

※家屋倒壊による圧死や、火災による焼死、津波による溺死などの「直接死」に対し、避難生活で持病が悪化して死期を早めたり、心身に不調をきたして自ら命を絶つたりするケースを「災害関連死」と呼ぶ。

26

地震



0. 緊急地震速報が鳴り響く
1. 安全な姿勢で構える
2. 揺れが収まるまで耐え抜く(南トラ1~3分以上)
3. 落ち着いて「火の始末」
4. 周辺の散乱に気を付けて移動(余震あり)
5. まわりの人の安否確認



Apague chamas na sua fase inicial com extintores de incêndio ou com baldes d' água.

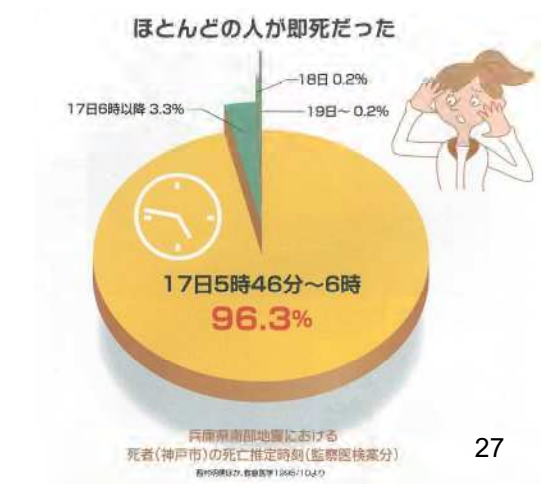
Como usar os extintores de incêndio



まくらもとセット
懐中電灯・ホイッスル・厚底スリッパ



「揺れ」に備える



兵庫県南部地震における死者(神戸市)の死亡推定時刻(監査医検査分)
神戸市消防局、警察署 1996/1/10より

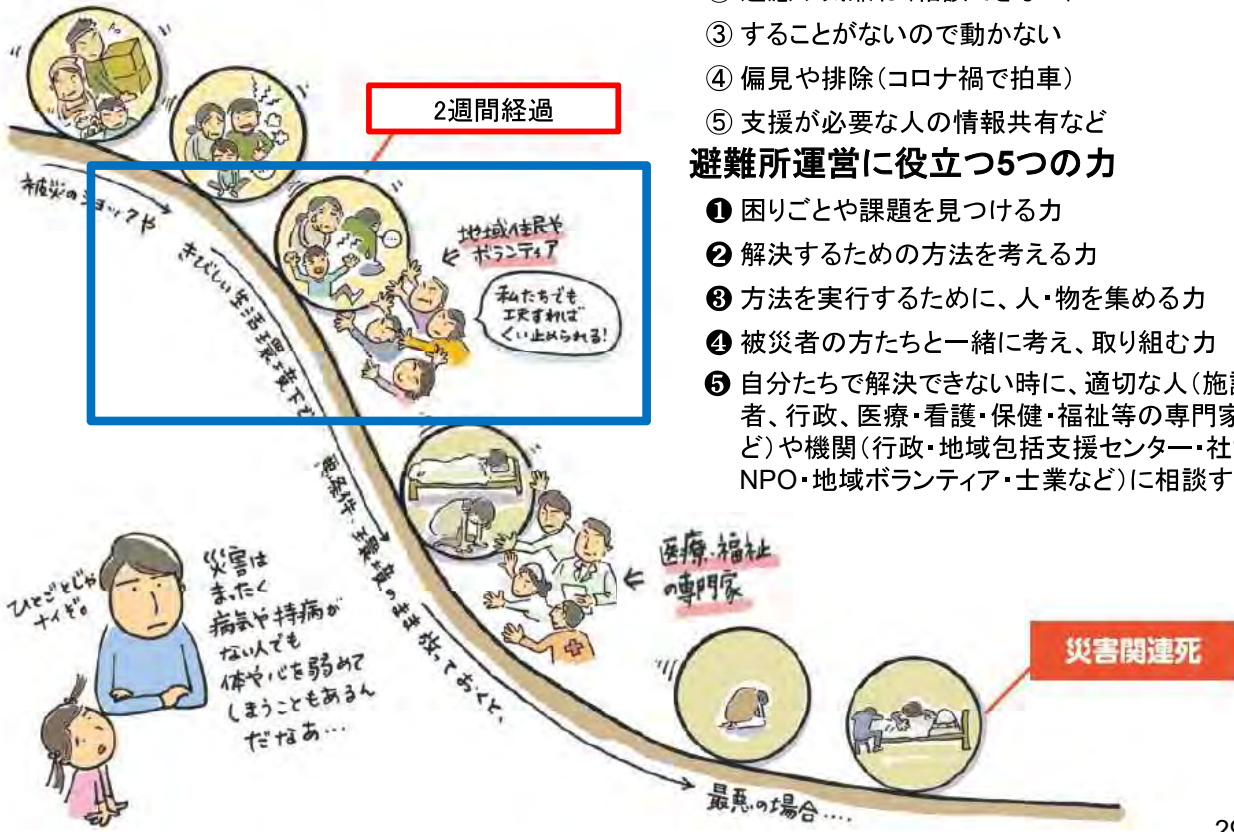
27

災害関連死(218人・直接死の4倍超)

自治体からの「ヘルプ」→多様な避難形態への対応・避難所アセスメント・要援護者対応などNPOの役割大



災害関連死発生の流れ



背景にある課題

- ① 生活環境の物理的悪化
- ② 遠慮や気兼ね(相談できない)
- ③ することがないので動かない
- ④ 偏見や排除(コロナ禍で拍車)
- ⑤ 支援が必要な人の情報共有など

避難所運営に役立つ5つの力

- ① 困りごとや課題を見つける力
- ② 解決するための方法を考える力
- ③ 方法を実行するために、人・物を集める力
- ④ 被災者の方たちと一緒に考え、取り組む力
- ⑤ 自分たちで解決できない時に、適切な人(施設理者、行政、医療・看護・保健・福祉等の専門家など)や機関(行政・地域包括支援センター・社協・NPO・地域ボランティア・土業など)に相談する力

災害発生直後



いのちを守る 取り組みのヒント!

自分が助かるための準備

頭ではわかっているけど中々備えられない。だって「人間だもの」。敵は災害ではなく「自分自身」。

近所の人からの声掛け・救助

大切な存在からの呼びかけなら信頼できるもの。「町内会長さんが、民生さんが、孫が、学生さんが」…。

支援の要は「コミュニティと信頼関係」

様々な社会資源との協力

命を守るためなら、よってたかって。おせっかいのススメ。「言ってくれば協力したのに」ではもったいない。

日常の訓練の積み重ね

脱マンネリ・脱常連化・脱行政依存。「誰もがいつかは要支援者」「そこに愛はあるか」。

みんなで災害に強い町づくりに参加しよう!

安城市地区防災計画策定の手引き

概要版

地区防災計画とは

平成25年6月に災害対策基本法が改正され、「地区防災計画」の考えが新たに盛り込まれました。地区防災計画は、市内の一定の地区内の居住者及び事業者が主体的に行う防災活動に関する計画です。言い換えれば「地区の自助・共助の計画」です。安城市では、原則として自主防災組織単位の地区防災計画の策定を想定しています。

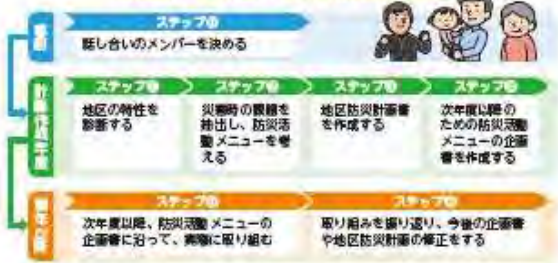
地区防災計画は、実際に地区に住み、地区の特性をよく把握している皆さんの手によって、自由に作るすることができます。水害や地震が発生した際に生じる地区の不安や課題の解決を自分たちで解決するためのアイデアを考えた計画化し、できることから取り掛かるので、とても参加しやすい地域防災活動です。また、作った計画は、加齢や世帯構成に応じて、地区防災計画に修正するよう変更することもできます。

なぜ作る必要があるのか

災害から身を守るためには、自ら災害に備える「自助」や、避難経路や物資確保期間の確保・救助活動など行政による「公助」をもっと身近にすることが、これまでの南海の地震において、避難や救助活動などに大きな役割を果たしてきた地域での助け合い（互助）は欠かせません。阪神・淡路大震災では、倒壊家屋の下から救出された全体的約8割の方は、家族の自助や近隣の方々の共助により救出されています。地区のみならず助け合うために、共助の力を強くすることがとても重要です。

地区防災計画を作成することがゴールではなく、計画の作成過程や実施を通して、地区の不安や課題を整理し、何ができるかを皆で話し合い、準備・対策・対策を行うことが、いざという時に地域の中で助け合う第一歩になります。

地区防災計画の取り組みの流れ



ステップ① 話し合いのメンバーを決める

ステップ①の話し合いに、誰を呼びのかを決めましょう。幅広い意見を聞くために、なるべく年齢・性別・立場が異なるメンバーをそろえましょう。毎回大勢集まるのが難しい場合は、ステップ②の課題抽出と防災活動メニューを考えるときだけでも、色々な人に出会えるように、事前に意見募集しておくなどの方法もあります。

ステップ② 地区の特性を診断する

ハザードマップ等を活用した災害のリスクの確認や、災害の歴史について再確認するなど、地区の特性診断を行います。
「地区診断表」を活用して情報を整理します。災害のリスクや課題の地域力などについて、診断することで、地区の強みや課題が見えやすくなります。

ステップ③ 災害時の課題を抽出し、防災活動メニューを考える

備蓄や避難方法、安否確認など災害に対して不安に思うことや地区の課題として捉え、対策の検討を行います。
「地区の課題と防災活動メニュー整理シート」に、災害が発生したら不安なことを書き出し、それを解決するための防災活動メニューを考えます。

「地区の課題と防災活動メニュー整理シート（抜粋例）」

年次別	課題（不安）	課題分類（種別）	防災活動メニュー（案）
平常時	室内の安全対策のやり方が分からない	家の安全対策	市のまちかど講座などに申し込む 防災訓練で啓発する
	水以外用意していない	備蓄品の準備	防災訓練のときに各家庭での備蓄確認の啓発をする
災害発生時	インターネットが使えないので情報収集が心配	避難のタイミング	災害時の情報収集の講習会を開催する
	安全な道が分からない	避難・安否確認	防災マップを作る。各世帯で避難ルートイメージするよう啓発する
災害発生時	生き残った人までどう救助するか	避難・安否確認	パルやジャッキ等で調査し、使い方を講習を開催する
	避難先にたどり着くまで支援してほしいのか	避難生活	在宅避難者への支援の啓発や訓練を実施する
休日・休暇時	何まどうすれば良いのイメージがでない	避難生活	過去の災害の体験者を呼んで勉強会を開催する
	仮設住宅に入ったら知り合いがいなくて不安	地域コミュニティの再生	過去の災害の体験者を呼んで勉強会を開催する

ステップ④ 地区防災計画を作成する

ステップ①～③で話し合った内容や、過去に作成した防災マップ、地区のルールなどを取りまとめ、計画書の作成を行います。
「地区防災計画書ひな型」に沿って、地区防災計画として次年度以降に引き継ぎたい内容を計画書に記載します。

ステップ⑤ 防災活動メニューの企画書を作成する

次年度以降に実施する内容を整理し、いつ・どこで・誰が・どのように行うのか、具体化するための企画書を作成します。
ステップ③まで考えた防災活動メニューの中から、優先順位の高いメニューを選びます。選んだメニューを「防災活動メニュー企画書ひな型」に沿って具体化します。作成した企画書をもとに、当面3年間の実施予定を作成します。

ステップ⑥ 防災活動メニューの企画書に沿って、実際に取り組む

企画書に基づいて防災活動に実際に取り組み、作業内容の確認や、参加者の反応、実施性など、防災活動メニューの効果測定を行います。
企画書に沿って、予定していたプログラムを実施し、参加者へのヒアリングやアンケート調査などを行います。

ステップ⑦ 取り組みを振り返り、次年度以降の計画書や地区防災計画の修正をする

防災活動メニューの目的の達成状況を評価するための評価を行います。
「防災活動実施評価表」を使って、取り組みと評価を整理します。その結果を活かして、翌年度以降の3年間の企画書とスケジュールを作成し、必要に応じて、地区防災計画を修正します。

質問コーナー

安城市地区防災計画策定マニュアル検討会編
などの機関からご質問

Q1 ここでは地区とは、どの範囲を指すのですか？

安城市では、自治体から地域の防災活動に取り組みでいただいている「自主防災組織」単位での地区防災計画の作成を想定しています。

Q2 私たちの自主防災組織では、既に様々な防災活動を行っています。それでも、地区防災計画を作る必要があるのでしょうか？

すでに実施している活動や作成済みのルールがある場合は、ぜひそれも地区防災計画に反映してください。現在の取り組みを整理して、客観的にみることで新たな課題や新しいアイデアが出てくるかもしれません。また、地区によっては自主防災組織の役員が毎年変わる場合があります。地区防災計画を作ることで、次年度以降も防災活動を継続しやすい体制を作る助けにもなれると思います。

Q3 私たちの自主防災組織は、あまり活発ではないので計画づくりは負担感が大きいし、せっかく作っても使えない状態にならないか心配です。

地区防災計画は、取り組み過程で、地区に存在する不安や課題を共有することで地区の皆さんの危険感や災害への認識を改めることが狙いのひとつにあります。地区からは「みんななくして、新しく計画を作る余裕はないし、1伊勢湾台風でも被害がなかったのだから自分の地区は大丈夫だ」と思っている。地区での防災活動の必要性を感じても少ないし、防災対策の必要性は分かっているが、何から手を付けてよいかわからない」という疑問や悩みも聞かれます。
計画は、手引書に書かれている4つの手順に沿って取り組みが作成できるよう工夫されています。まずは、自分たちができる範囲の取り組みを見出すためのきっかけづくりと提案、チャレンジしてみましょう。
また、手引書に沿って作成した場合、計画には「地区で実施したい今後の防災活動」が掲載されますので、次年度以降の防災活動を考える参考資料とすることができます。

Q4 地区防災計画は、地震と水害、どちらのケースで作成すればよいのでしょうか？

想定する災害は、自主防災組織の皆さんの声から決めます。どちらかに絞ってよいですし、両方を想定してよいです。ただし、地区の不安や課題を整理すると、地震と水害両方に共通するものも多いので、両方を想定した計画を作成することをおすすめします。

Q5 自らの地区のような互防互救の体制は作れそうもないのですが、

地区防災計画策定の初年度に、内容が濃く、たくさんの資料が送られた際、難しい計画書を作成させようと無理する必要はありません。まずは基礎的な内容の計画書を作り、次年度以降に地区の活動を巡って、少しずつ計画書の内容を深めることが大切です。地区の防災活動の充実とともにしっかりと計画書を書いていきましょう。

令和3年3月発行

編 安城市危機管理課、認定NPO法人レスキューストリッパ中心
発行 安城市危機管理課 (0564-71-2220)

小川町内会では、令和3年度に「地区防災計画」を策定しました！

地区防災計画とは？

地区防災計画は、地域住民による自発的な防災活動であり、東日本大震災を契機に平成25年に創設されました。

過去の災害において避難や救命救助などに大きな役割を果たしてきた地域での助け合い、支え合いの「共助の力」を育み取り組みです。

計画策定までの流れ

町内会役員、総代、民生委員、子ども会世話人、老人クラブ会長などが地域の代表として集まり、被災地における支援活動の経験が豊富な認定NPO法人レスキューストックヤード(RSY)の協力を得て、ワークショップ(話し合い)を行いました。
大規模な風水害や地震の発生が危惧されるなか、地区の特性に応じた防災上の課題について簡短な意見交換を行い、令和4年度以降に取り組み防災活動の内容を作成しました。

ワークショップ1「地区の特性の確認」

- 強み：ご近所同士気軽に声をかけあえる
防犯や福祉活動がさかん
- 課題：矢作川の決壊で最大5mの浸水
南海トラフ地震で震度6強の揺れ



ワークショップ2「災害時の課題の抽出」

- 1 避難のタイミング、場所、方法
いつ避難を開始すれば良いの？
どこに逃げれば良いの？
- 2 備蓄内容、場所、量
何をどれくらい準備すれば良いの？
何を持って避難すれば良いの？
- 3 避難行動要支援者の対応
いざという時一人で逃げられない高齢者、障がい者、子ども、外国人などは、どうやって避難すれば良いの？



ワークショップ3・4「防災活動メニューのアイデア出しと企画書の作成」

災害時の課題に対して、みんなで、今後地区で取り組みたい防災活動のアイデアを出しました。これをもとに5つの防災活動メニューの企画書を作成しました！



企画書は裏面を見てね！

小川町内会でこれから取り組む防災企画

みんなで考えた5つの企画の中から、向こう3カ年で取り組みたいものを投票して選びました。順位の高いものを参考にしながら、小川町内会の防災企画を進めます！

順位	企画のなまえ	概要
1位	避難経路の講習会と避難訓練	・役員や組長に対し、安全な避難経路の講習会を開催する。 ・避難行動要支援者の名簿を確認する。 ・訓練で避難の伝達や、安全な避難所までの避難誘導を行う。
2位	水害時緊急避難行動について	・地域を小グループに分ける。 ・グループ単位で避難の声かけや安否確認をできるしくみを作る(LINEアプリ導入)。 ・市の防災ラジオ保有状況を確認、未整備世帯に購入を勧める。
2位	安心・安全な避難訓練の方法を考えよう	・集落ごとに、避難行動要配慮者への対応を含めた、避難方法の勉強会を開催する。 ・組長は防災マップで避難ルートを確認し、実際の避難訓練でスムーズに避難できるか確認する。
2位	地震時に必要な資機材の使い方講習会の開催と食料の試食会	・総会時に防災倉庫の備蓄品リストを配布する。 ・賞味期限が切れそうな非常食の試食会を行う。 ・「便利ポンチョ」と簡易トイレの使い方の勉強会を行う。
3位	アウトドア派の人の経験、知識の分かち合い	・屋外で、ブルーシートテントや仮設トイレを手作りする。 ・寒さ対策、夜間の明かりの確保、ゴミ処理の工夫などを学ぶ。 ・ふれあい会に合わせて企画を実施する。

地区防災計画づくりに参加した皆さんの声

沢山の人と時間を使って出来上がった地区防災計画を一人でも多くの人に理解してもらい、できることから実行したいです。

防災意識は高まったけど、自助努力ではどうしてもできないことが多いことも分かった。やっぱり地域の多様な人たちの関わりが大切！

色んな人の意見を聞きながら、自分の見方、考え方、やり方を変えることで、沢山の防災対策に取り組めることが分かったわ。

防災は、一人ではなかなかその気になれないテーマだったけど、みんなで話し合うことでモチベーションが上がった！

RSYからのメッセージ

高齢者や障がいのある方も含めて、早めの避難を促すための情報収集や、訓練方法などに沢山の配慮が見られました。防災は地道な一歩の積み重ね。最初から100点満点を目指す必要はありません。「できることからはじめよう！」を合言葉に、みんなでこの防災企画を、一つひとつ実行していきましょう。

作成：小川町内会 協力：認定NPO法人レスキューストックヤード、安城市

<https://www.city.anjo.aichi.jp/kurasu/bosaibohan/chikubousaikaikaku.html>

高齢者宅の家具転倒防止～名古屋市千種区東山学区

地震に備え、家具転倒防止の対策が求められているが、独居高齢・老々世帯では自力での対策は難しいため、様々な地域資源の力を借り、実際に転倒防止を実践。

内容

- ① 民生委員が高齢者に、転倒防止の希望を訪問時に調査。
- ② 自治会役員・消防団・女性会その他、地元の大工・建築士、大学生有志ら協力者を募り、まずは転倒防止の研修会(講師はプロの業者)を開催。
- ③ 特定の日決め、②の大工・建築士をリーダーに4～5名の作業グループを編成し、希望のあった高齢者宅で転倒防止を実践。

・転倒防止器具は1点は町内会費から、2点以上は実費

・作業終了後は、自治会館で女性会から「おしるこ」のサービスで慰労



津波からの避難訓練～高浜市南部まちづくり協議会

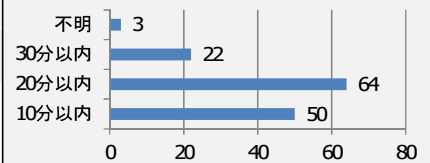
南海トラフ地震で最高3.2mの津波が予想されている「堤外地」の地域が、津波到達時刻75分以内の避難をめざし、朝5:00の地震発生を想定し、実際に避難を訓練。

内容

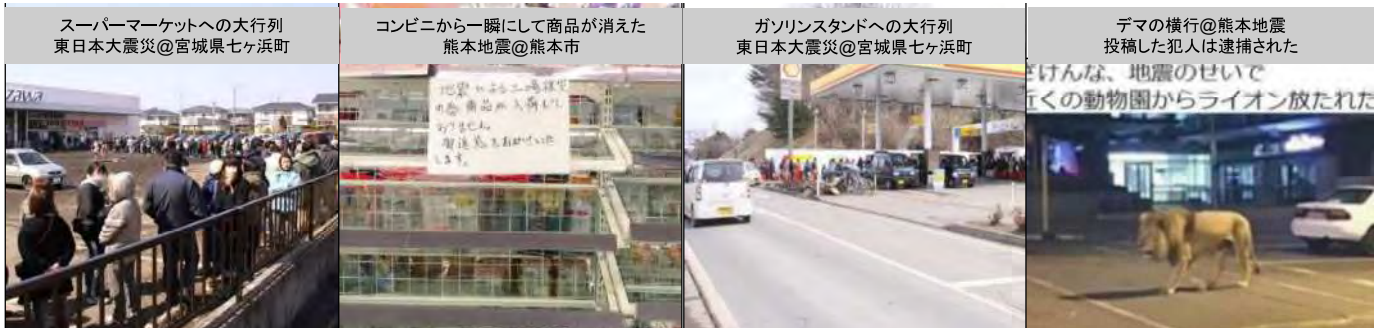
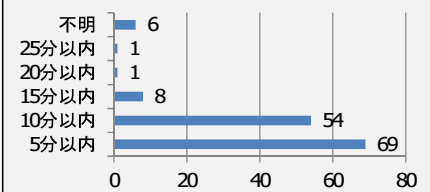
- ① 講演会(被害想定の確認など)・ワークショップ(地域の防災の課題の意見交換)・事前のまち歩き(まちの危険個所などをチェック)等を開催。
- ② 訓練の概要を地域に伝達(5:00地震発生→身を守り家族の安否確認→避難準備→避難行動要支援者への支援→避難開始)。※電灯は点けない
- ③ 高台の公園まで、それぞれが避難。

- ・消防団・警察も協力して道路で交通整理、市長も参加
- ・避難の後は、女性会から「炊き出し」のサービスで慰労

地震発生後(5:00)から自宅を出るまでの所要時間



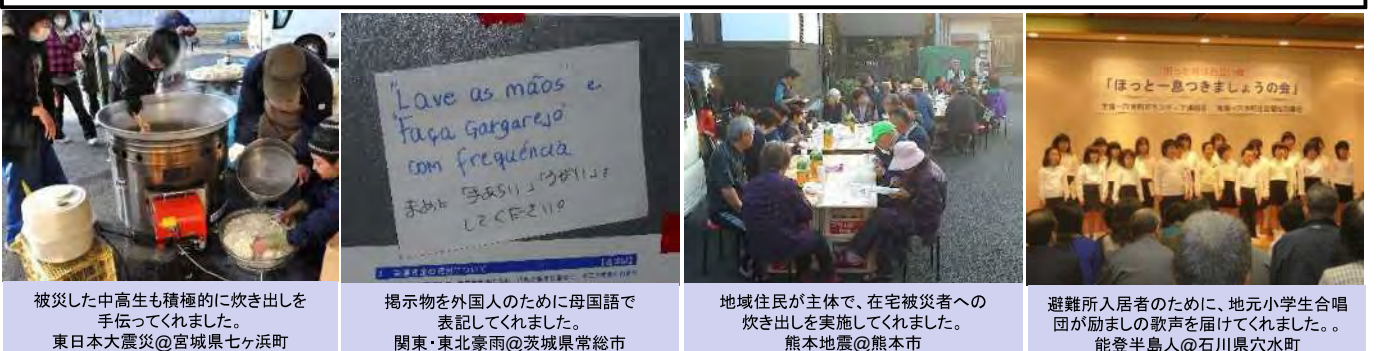
自宅から避難場所までの所要時間



地域での支え合い・助け合いの重要性

- ・ 阪神・淡路大震災では、**要救助者となった約77%を地域住民が助け出しました。**
- ・ 東日本大震災では、津波でずぶ濡れになった方を、**難を逃れた地域住民が毛布にくるんでさすって温め、低体温症を防ぎました。**また、津波の被害を受けなかった**高台の住民らが総出でおにぎりを握り、被災者に配りました。**
- ・ 熊本地震では、**地域住民が食材を持ち寄り、炊き出しをしました。**また、**電動自動車の所有者が、スマホの充電などに困っていた多くの人に電気を譲りました。**

困った時はお互い様。みんなで支え合い助け合うために、平常時から交流を深めましょう。



被災した中高生も積極的に炊き出しを手伝ってくれました。
東日本大震災@宮城県七ヶ浜町

掲示物を外国人のために母国語で表記してくれました。
関東・東北豪雨@茨城県常総市

地域住民が主体で、在宅被災者への炊き出しを実施してくれました。
熊本地震@熊本市

避難所入居者のために、地元小学生合唱団が励ましの歌声を届けてくれました。
熊登半島人@石川県穴水町

地元中・高校生ボランティアの活躍

- 炊き出しのお手伝い(配膳も)
- 避難所の環境改善
- 足湯やサロン&傾聴
- ポリタンク運び(順番待ちの代理も)
- 子どもと遊ぶ
- 救援物資の整理・仕分け・・・

できることを考え、行動に移そう!!



37

地域の防災訓練でも

- 地域の方とともに、車いすの方を迎えに行き、避難所の学校まで一緒に付き添ってくれました。
- 様々な訓練体験で、中高生が教える側になって、積極的に参加しました。
- 物干し竿と毛布で担架を作りケガ人を搬送
- 心肺蘇生や三角巾を使った応急手当
- 参加者に冷たいお水のサービスも
- 「自転車部隊」を編成し、高齢者の方の安否確認を実施。

緊急時に「はじめまして」では、助け合いは成り立たないかも。普段からの「信頼関係の構築」が重要。



38

■ 平常時の多彩な防災活動メニュー



避難所感染防止対策研修



コーディネーター養成講座



防災まち歩き



防災力向上ワークショップ



家具止め講習会



要配慮者研修・訓練



外国人研修・訓練



子ども・家族連れ防災イベント



防災運動会



マンション防災研修・訓練



倉庫管理・うるうるパック



資器材管理

まとめ

- 災害は来ると考えた方がいい
- 実際の災害現場は想像以上に厳しい
- 災害対応は行政だけでは限界
- 減災に向けた住民参加が必要
- 「おせっかい」のススメ
- いかに地域の資源を巻き込むか
- 防災に特効薬はない。「地道に・丁寧に」

自主防災組織リーダーのみなさんへ

自分の身と地域を守るために
**自分の身を守って、
地域を守ろう！**

7月8日(土)12:15~13:00

愛知県消防学校

あいち防災リーダー会 防災・減災伝道士

早川澄男 78歳 B型

私からのお願いは、

第一に、自分の身を守ること
あわせて、ご家族の身も

その実践行動と備えがあつてこそ、
地域は、守れる第一歩ではないでしょうか

地域の皆さんに、どう備えるか気づいてもらいながら、
更なる課題を觀つけ、改善活動をしてゆくことが大切

地域を守るために

自主防災組織リーダーの皆さんは
どんなことができるのでしょうか

自主防災組織リーダーの皆さんは
どんなことをしなければならないのでしょうか

皆さんへのヒントになれば、幸いです！

地域を守るため 自己紹介を

H16年防災カレッジ修了

防災リーダーとして、防災減災啓発活動

地域では、学区(小学校区)では、

いきなり**H16年東海学区自主防災会長**

(6年間)で卒業以降、ボランティア活動に専念

R3年 町内会長⇒いきなり**学区の委員長**

6月2日の豪雨

みなさんの地域では、どうでしたでしょうか

☞ 皆さんは、どう対応されましたか……地域によって異なりますが

警戒レベル2 危険を感じましたか

準備体制をされましたか……さらに**地域の役割**にもよりますが

警戒レベル3 高齢者避難情報は、発令されましたか

避難所開設されましたか

☞ (小学校区)学区区政協力員長＝災害対策委員長⇒避難所開設

それぞれの地域で異なりますね。

【2021年5月20日からの、警戒レベルと避難情報】

	警戒レベル	状況	取るべき行動	避難情報等
高	5	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保 (必ず発令されるものではない)
警戒レベル4までに必ず避難！				
危険度	4 全員避難	災害のおそれ高い	全員 危険な場所から避難	避難指示
	3 高齢者等は避難	災害のおそれあり	高齢者等は 危険な場所から避難	高齢者等避難
	2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認する	-
低	1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	-

地震は、突然やってきます。ではどう備えるか

1-1-3 人的状況(原則「令和4年度学区別生活環境指標」の値を採用)

	東海学区		名古屋市
	(人)	(比率%)	(比率%)
常住人口(人)	4,704		
15歳未満	428	9.1%	12.4%
65歳以上	1,369	29.1%	25.4%
70歳以上※1	1,139	24.2%	
要配慮者※2	764	16.2%	
外国人	428	9.1%	3.4%
世帯数(世帯)	2497		
町内会推計加入率	40.8%(団地未加入1100世帯)⇨10%		68.7%
その他			

※1 70歳以上は、令和5年4月1日現在の公簿人口の値

※2 **要配慮者数は、令和5年3月31日現在の高齢者・障害者等、災害時において特に配慮を要する方の数**

レベル3⇒高齢者避難情報 早めの避難を

①自宅待機が一番

2階がありますか！

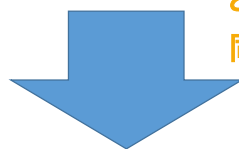
⇒自宅が危なければ、隣近所か(普段からのお付き合いを)

👉**対象者は、どこに、何人いるか 要配慮者764 > 293/2ヶ所**

避難所であれば、どこへゆくのか

どの経路で

同行者と一緒に。非常持ち出し品は、



突然起きる地震には、**生きいてこそ、👉生きるすべを実践**
より安全な場所へ待機できる。

イントロ問題 **天災(数字)クイズ**

どれほど覚えていますか？

阪神大震災は 1995. 1. 17. 5:46

28年前のこと どれほど揺れましたか

- ①15秒
- ②30秒
- ③1分

👉映像をみましょう！ 👉身を守るには、

天災クイズ

どれほど 感じていますか

東日本大震災は、2011.3.11. 14:46

12年前のこと どれほど揺れましたか

- ①1分
- ②3分
- ③5分

揺れている時間は、身を守る

👉津波から安全に避難するには、何分以内か

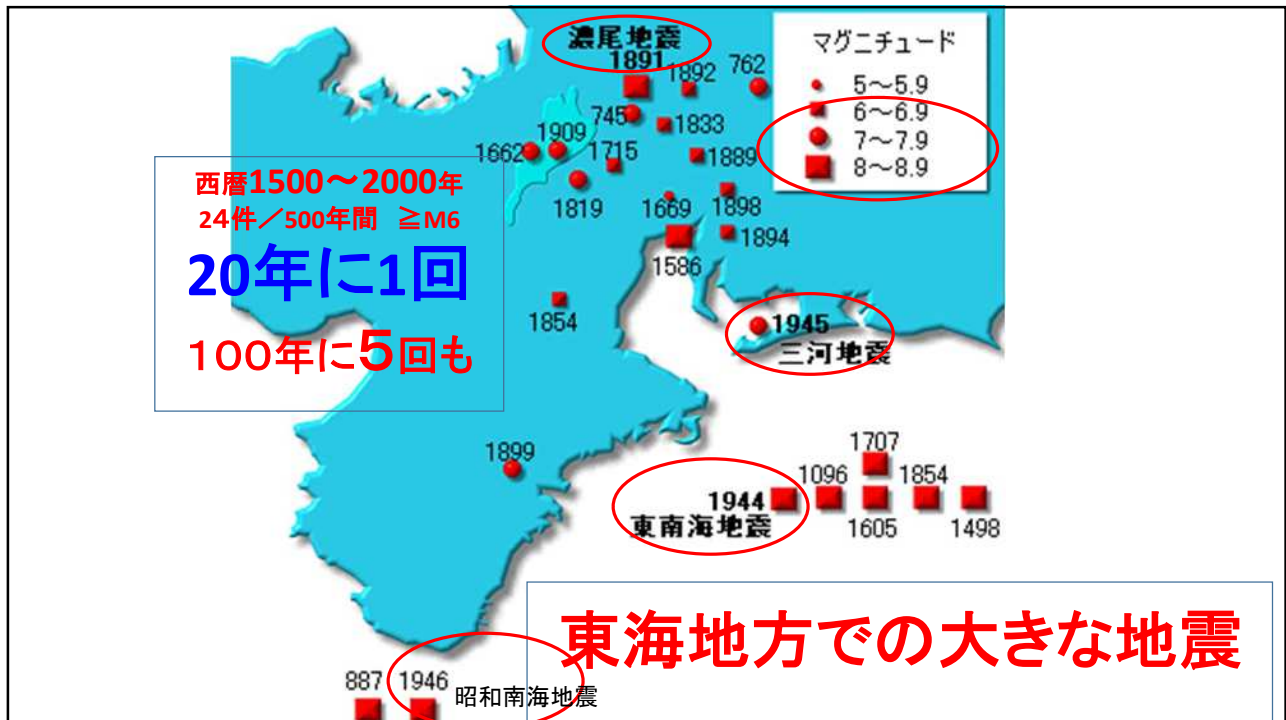
地域の生い立ちを学び、災害履歴を伝える

長老、語り部(被災者)、先生、ボランティア等

- ①地域の歴史(生い立ち)を知る
- ②歴史から被災状況
- ③地域の災害を

よく学び、よく理解することが大切⇒知らしめながら、課題を観つけて改善してゆく
 地域のハザードマップ⇒課題⇒改善活動

気づき⇒減災行動の誘発⇒減災実践を



濃尾地震
(岐阜県根尾谷断層)
明治24年 10.28
6mの隆起

①濃尾地震1891. 10.28

今年で**132年**

海岸線から150m陸揚げ
約100トン...尾鷲

78年 海溝型地震

②昭和東南海地震12月7日 津波被害

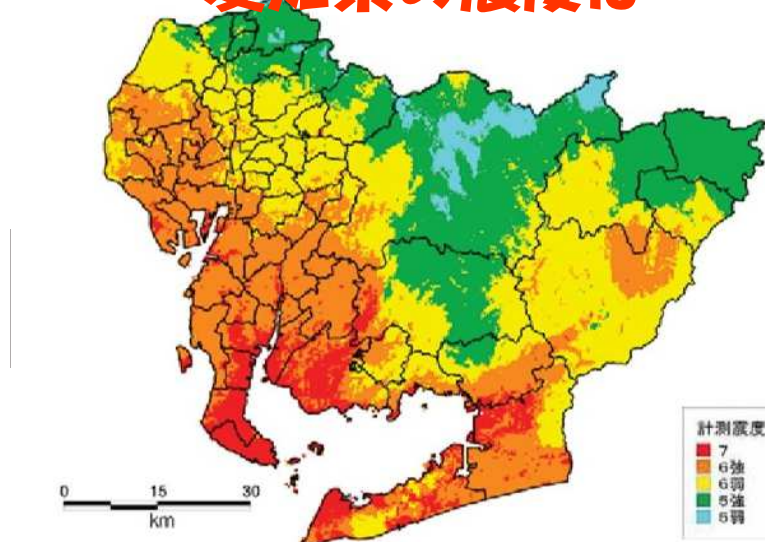


起きる前から、
 名前がついている地震は

南海トラフ巨大地震

では、いつ頃おきるのか
予測出来れば、準備しますよね
予測してみまじょうか

愛知県の震度は



お住まいは、会社は、在所は、

震度分布 「理論上最大想定モデル」による想定（陸側ケース）



10月28日は、 地震特異日⁷

つぎは、3月11日

- ・1763年3月11日(宝暦13年1月27日): 八戸東方沖、M 7.3、津波あり。
- ・1853年3月11日(嘉永6年2月2日): 小田原地震(嘉永小田原地震)、M6.7。
- ・1958年3月11日: 石垣島近海、M7.2。
- ・2011年3月11日: 東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)、M9.1、津波あり。

日本では、4件

878年(元慶2年):

相模・武蔵地震、M7.4、死者多数。

1433年(永享5年):

相模地震(永享関東地震)、M7以上、死者多数

1707年(宝永4年):

宝永地震(49日後宝永噴火)、
M8.5程度、死者2万人以上



1891年(明治24年):

濃尾地震、M 8.0、死者・行方不明者7千人以上。

地震が起きたら、
私たちのまちは、どうなるのでしょうか

私たちが、家族が、親戚が
住んでいる地域
働いている地域

ハザードマップ

⇒課題の明確化

被害想定(時間帯)

震度

死者数

家屋の倒壊、家具・ブロック塀・自販機の転倒、

火災

津波(安全避難)・・・津波高は垂直・水平避難が到達
時間

負傷者数

家具の転倒、ガラス・食器飛散

☆関東大震災・阪神大震災・東日本大震災から、多くの学びがありま

震度

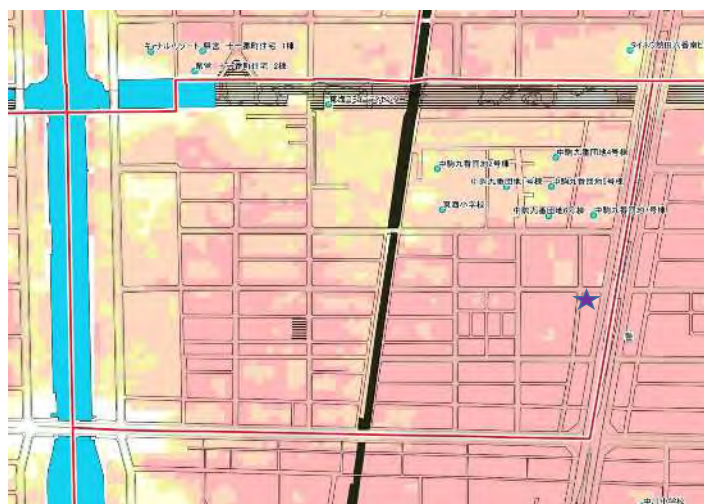


建物倒壊危険性(地震の揺れによって建物が全壊する割合)



建物全壊率	
■	20%以上
■	15%以上 ~20%未満
■	10%以上 ~15%未満
■	5%以上 ~10%未満
□	5%未満

津波浸水深(津波が発生した際に想定される基準水位)



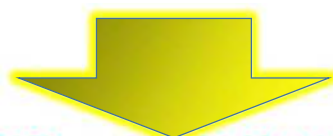
基準水位	
■	5.0m~10.0m未満
■	3.0m~5.0m未満
■	1.0m~3.0m未満
■	0.5m~1.0m未満
■	0.3m~0.5m未満
■	0.3m未満

津波浸水時間(地震発生後30cm以上の浸水が始まるまでの時間)



浸水深が30cmに到達するまでの時間(分)	
480 ~ 720	480 ~ 720
240 ~ 480	240 ~ 480
120 ~ 240	120 ~ 240
90 ~ 120	90 ~ 120
60 ~ 90	60 ~ 90
30 ~ 60	30 ~ 60
20 ~ 30	20 ~ 30
10 ~ 20	10 ~ 20
0 ~ 10	0 ~ 10

**ハザードマップの観る課題から
地域防災力の向上を図る
地域（町内）のことを
よく知り、知らしめながら**



**防災管理や減災への改善や強化策
を模索しながら提案/実践す
る。**

地域の防災力の棚卸をする

地域の組織・施設

・ライフライン・避難所（避難経路・収容人数・備蓄品）

・生活・情報

を事前に調査しておき、

課題を觀つけさせ、

気づかせる作戦で望

む

地域はどう守れるか⇒地域の防災力の棚降ろし （組織・施設・情報）

- ①組織：地域コミュニティ組織・自主防災組織・消防団
- ②施設&設備：消防署・防災庫・消火栓・防火用水
・消防ポンプ・消火器 企業商店等との災害協定
- ③ライフライン：電気・電話・地下式給水栓
・震災用トイレ・排水（地下貯水槽）
- ④避難場所：地震・洪水・津波・大規模火災（収容人数）・避難経路
- ⑤生活：病院・薬局・食料品店・米屋・HC・CVS 避難所備蓄品
- ⑥情報：掲示板、新聞店、郵便局、交番、GS、CVS、
- ⑦人的状況：人口（15<、65>、70<、要援護者、外国人、町内会加入率）

防災施設を確認しつつ、 安全に避難所へは行けますか

点検項目⇔気づいてほしい個所(コースどり:避難経路)

- ①ブロック塀の転倒は、
- ②自販機の転倒は、
- ③瓦・植木鉢・かんぱん・トランスの落下は
- ④油の流出は、危険物管理は、
- ⑤古い木造建築物は、
- ⑥道路の段差・溝は、
- ⑦空き家は、ありますか
- ⑧一人住まいや弱者さんの救助はできますか
- ⑨消防自動車は、通れますか

TRY:地域の安全・安心で快適なまちづくり
足と目で観察:問題点を探させ、
みんなから課題を抽出させる



問題点(課題)から、改善活動を

- 自販機の転倒
- ブロック塀の倒壊
- 九番団地の外人さんの防災は
- 電灯は、……防犯で担当
- 掲示板の修理…当初業者→自前型で
- 電柱のトランスの落下
- 通路の段差
- 通路へのはみ出し
- 1人住い宅
- 要介護者宅



☞ 防災・安心まちづくり活動へ

避難所は、何人まで収容できるのか



スペースは、毛布一枚分
通路もままならず(阪神)



大多数の住民を収容できない！

被災する人を減ずる活動(減災)

しかないでしょう！

① **自宅避難者**

② **垂直避難者** (高層階へ、近隣や隣のお宅へ……)

③ **水平避難者** (より遠くの高台へ……)

④ **一時避難者**

安否確認訓練

7月9日（日） 昨年掲揚率78% < 80%

9:00地震発生 < 広報車呼びかけ >

無事ですカードの掲示を

9:30～組長さん、掲示枚数確認⇒副会長へ10:00までに
 10:30以降掲示撤去願います。

掲示ないお宅は、ノック安否確認をさせていただきますが、
 *ご都合の悪い方は、事前に組長さんへ連絡を願います。



30分(身を守り) + 30分(安否確認)
 ⇒ 60分以内に安全避難



①家屋の耐震化

建物倒壊危険性(地震の揺れによって建物が全壊する割合)



建物全壊率	
■	20%以上
■	15%以上 ～20%未満
■	10%以上 ～15%未満
■	5%以上 ～10%未満
□	5%未満

あなたの住んでいる住まいに 関しての質問です・・・

- ① 住まいは、奥様の在り所は、
昭和56年以前に建てられましたか
- ② 木造建築ですか
- ③ 瓦屋根ですか（重い屋根）
- ④ 2階建てですか
- ⑤ 南側又は道路側は、壁がないですか
（窓が多いですか）

如何に、地域に伝えるか

① 自助(家族)+② 近助(向う3軒両隣)+③ 共助(地域)

- **家の耐震化**
- ブロック塀の改良
- **家具の固定**
- **ガラス飛散防止**
- 備蓄
- 非常持ち出し品の準備
- 家族同士の避難場所・安否確認
- 帰宅困難

気づきから
率先垂範を

ブロック塀の転倒防止

1978宮城沖地震11/16 ⇒大阪北部地震2018

👉ブロック塀倒壊死2

撤去・緑化・低くす
(軽量化) フェンス化・
等

チャンスを活かす

保存版 東海学区 九番町内会 2018年7月
ブロック塀の危険箇所 東海学区(九番町内会)

伊勢湾台風(1959年)で水浸したから
土を盛って家を建てるようになった

24ヶ所

②家具の転倒防止

家具固定をしている家に、**住んでいる人**(22名の方)

①**100%しっかり固定している人いつでも自助100%**

②**寝室には、家具が置いてない人 自助率50%**
または、家具を固定している人

③**半分以上は、固定している人 自助率**
リビング

④**これから、固定する人 自助率**

では、固定作業開始するなら、

①寝室(カーテン) ⇒ ②台所(冷蔵庫)食器棚 ⇒ ③リビング(テレビ)

震度 7

- 立っていることが出来ず、はわないと動くことが出来ない。
- **固定していない家具の大半が移動し、倒れるものがある。**
- ドアが開かなくなることがある。

震度6強

- 立っていることが出来ず、はわないと動くことが出来ない。
- 固定していない**重い家具のほとんどが移動し倒れるもの**が多くなる。

震度6弱

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない**重い家具の多くが動いたり倒れる。**
- **壁のタイルや窓ガラスが破損落下する。**

家具は、どうなるのか**震度5強**

- **棚にある食器類、書棚の本の多くが落ちる。**
- **ダンスなど重い家具が倒れることがある。**
- **TVが台から落ちることがある。**

左側の写真を見て何を感じますか？

お金をかけずに、すぐにできる方法 家具の置き方と置き場から

① 寝室には、タンスなし... ・ ・ 倒れるものなし

* 一番長い時間過ごす部屋

② 納戸に家具収納を

③ タンスが倒れても良い方向へ... ・ ・ ・ 安全空間
どのように倒れるか

④ タンスが倒れても、逃げ口を塞がない
... 避難通路の確保



家具を固定してたら (宮城県北部地震)



かぐてんぼう隊活動



地震による家具類の動きと被害

地震の揺れで家具類や家電製品が、どのような動きをして被害をもたらすかをまとめると次のようになります。

家具の挙動 被害傾向		
転倒	落下	移動
<p>倒れない</p>	<p>落ちてこない</p>	<p>動かない</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 周囲の人、物への重大な被害 ○ 避難通路の障害 ○ 火気器具への転倒による火災発生 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 周囲の人、物への重大な被害 ○ 避難通路の障害 ○ 火気器具上への落下による火災発生 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 周囲の人・物への被害 ○ 避難通路の障害
<p>変形</p>	<p>収容物の落下</p>	<p>扉の開閉・落下</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 収納物の移動、落下、破損 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 周囲の人への被害 ○ 収納物破損 ○ 避難通路の障害 ○ 収納物が火気器具上に落下することによる火災発生 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 周囲の人への被害 ○ 雑音による心理的影響 ○ 避難通路の障害 ○ 収納物の落下

東京消防庁

家具の固定⇒がぐてんとうぼうし隊

食器棚を安全にする工夫

板などで食器の飛び出しを防止

L字金具で棚を固定

戸が開かないようにストッパーを取りつける

食器が滑らないよう滑り止めシートを敷く

本棚を安全にするには?

面で支えるように、板を1枚噛ませ、突っ張り棒と板・本棚の間は両面テープで固定

重い本は下へ置き、突っ張り棒とストッパーで本棚の転倒と飛び出しを防止

市販の「突っ張り型」転倒防止グッズ「マグニチュード7」

地域の防災・防火は、
安心で安全なまちづくりから、
顔の見える関係づくりを



家具固定2棹取付無料



火災警報器取付無料
半額斡旋1000円



簡易消火器
半額斡旋500円



無事ですカード
無い方は、組長さんへ

地域を守るために

自主防災組織リーダーの皆さんは

ボランティア活動は、……YES

👉 地域での役割は、何ですか……GO！

👉 地域での役割がなければ、……参加を！

**地域のまちづくり活動に参加して、
支援活動をしませんか**